

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

396

350

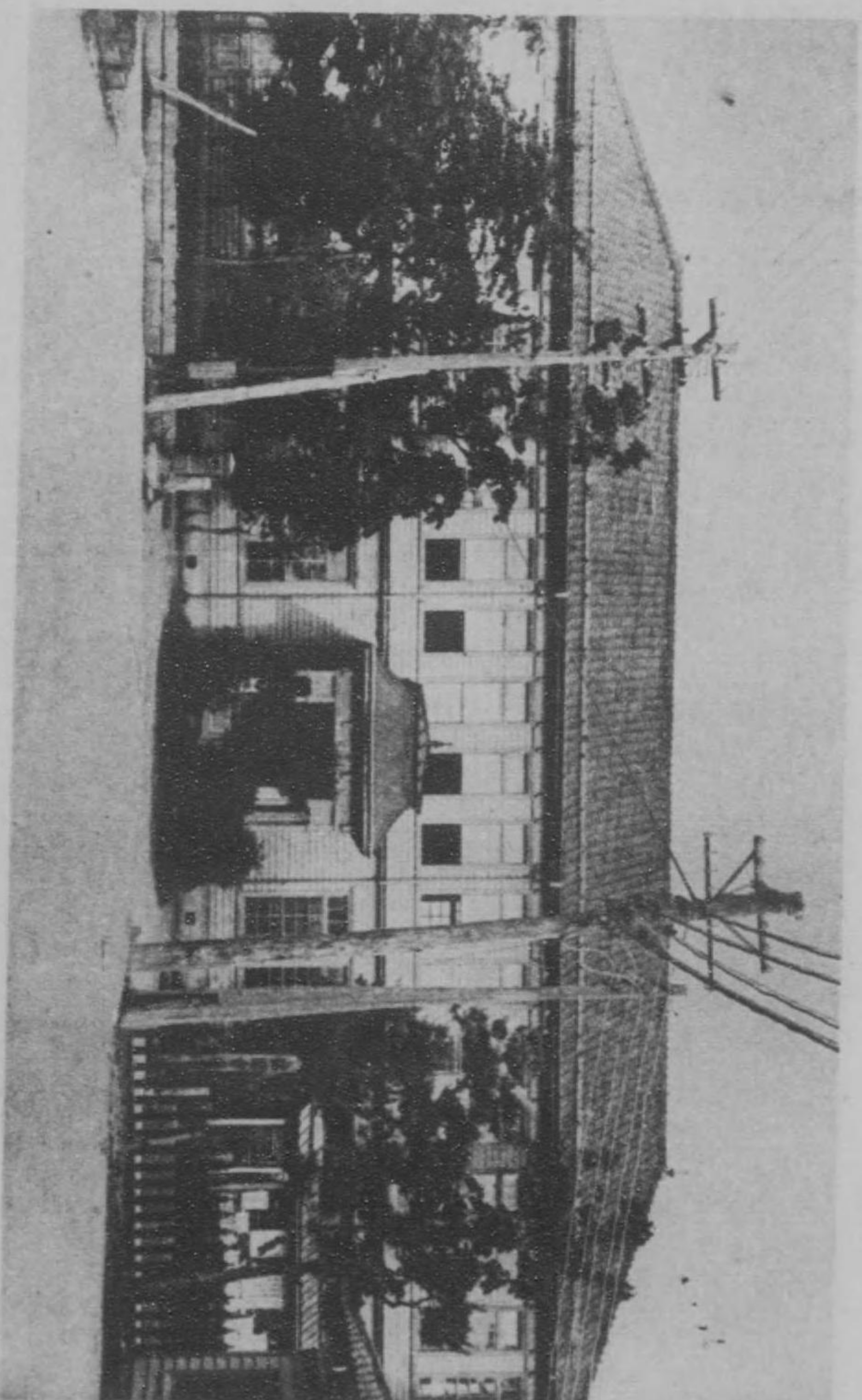
威  
田  
産  
業  
名  
勝  
名  
物  
案  
内

始



盛岡  
産業名勝名物案内





盛岡市役所

396-350

# 盛岡産業名勝名物案内

## 盛岡市の概況

盛岡市は巖手縣の中央に位し東徑百四十一度九分北緯三十九度四十二分海拔四百十六尺餘面積〇方里五三、東西一里南北一里三町にして大字十小字三の區を以て市街を形成せり其周圍は岩手郡中野、米内、厨川、淺岸、本郷等の各村に接し、物貨の集散地なると共に縣廳所在として實に巖手縣治の中心地たり、市内三十有餘の官公衙あり騎兵第三旅團、工兵第八大隊の屯營地として盛岡高等農林學校を始め中小學高等女學校あり、商業、農業、工業の各實業教育機關備はり戸數七千七百有餘、人口四萬四千餘人を算し現下起工中の鐵道工事の進捗と共に年を逐て殷賑の形勢を示しつゝあり

本市の起源は遠く七百餘年前安倍頼時父子の厨川柵に據りたる時代にあるべしと雖も文献の徴すべきなし、其後不來方城と唱へ又森ヶ岡と稱せしか、現市街を構成したるは文祿二年南部氏二十七代利直公の築城せられたるに創り稱を盛岡と改め爾來南部氏累世の居城たり、明治維新廢藩置縣に際し盛岡縣を置かれ後巖手縣の首都と爲り明治二十二年六月市制實施に伴ひ盛岡市と稱し以て今日に到れり

## 交 通

國道は市の南端仙北町より市街の中央を貫通し右曲左折して厨川に入り北上川に沿ふて北に往く、縣道は東海岸の宮古に達するものと西方厨川を経て秋田縣生保内に通ずるものと市を距つる西北二里のところにて國道より分岐して秋田縣花輪に至る三縣道あり、鐵道の東北本線は市の南西端を走り盛岡及仙北町の兩驛あり最近盛岡驛より分岐して秋田縣大曲に達する橋場線、盛岡驛より宮古を経て山田

に至る山田線及好摩驛を経て秋田縣花輪に至る花輪線等は目下工事中にして、此の三線は盛岡を中心としたる横斷線なれば今後太平洋と日本海との交通聯繫の關門たるべきを以て本市將來の發展は蓋し想像の外なるべし

産

業

## 商 業

市民の多數は商業に従事するものにして總戸數七千七百有餘戸の内商賈の數は二千三百餘戸を占め一ヶ年の取引額約三千萬圓に達し、其内移入品の重なるものは吳服太物にして魚類、砂糖、米穀、綿花、鐵材等之に次ぎ、移出品の重なるものは馬匹、繭、生絲、木材、鐵鑄物、木炭、藁工品、綿織物等にして盛岡驛に於ける最近の移出入總額は移入壹千貳百五拾貳萬餘圓移出五百九拾九萬六千餘圓を示せり

## 工 業

商業に亞ぐものは工業にして一千三百餘戸を算し逐年増加の勢を示せり其製産物の重なるものは鐵瓶及鑄鐵器、菓子類、織物、下駄、指物、染物、皮革製品、下

駄表、竹細工、漆器、陶器、木管及清酒、醬油、清涼飲料等を合せ參百參拾八萬餘圓を算し、此外繭、菓物、米穀、蔬菜、家畜等の農産物を合すれば其價格殆んと參百八拾萬餘圓に達す、而して工産品中特記すべきものは鐵瓶及茶の湯釜にして古來全國に其名を知らる、又最近著しく進歩したるものは紙荷札及製綿等の工業にして各其特長を發揮して他府縣の製品に對抗し、又漆器、陶器、タオル、紫根絞、菓子類、木管等皆他に比類なき獨特の技術を顯はして本市工業界を賑はすのみならず廣く縣外に移出し産額年を逐ふて増加しつつあり

## 巖手縣商品陳列所

位置 盛岡市内丸

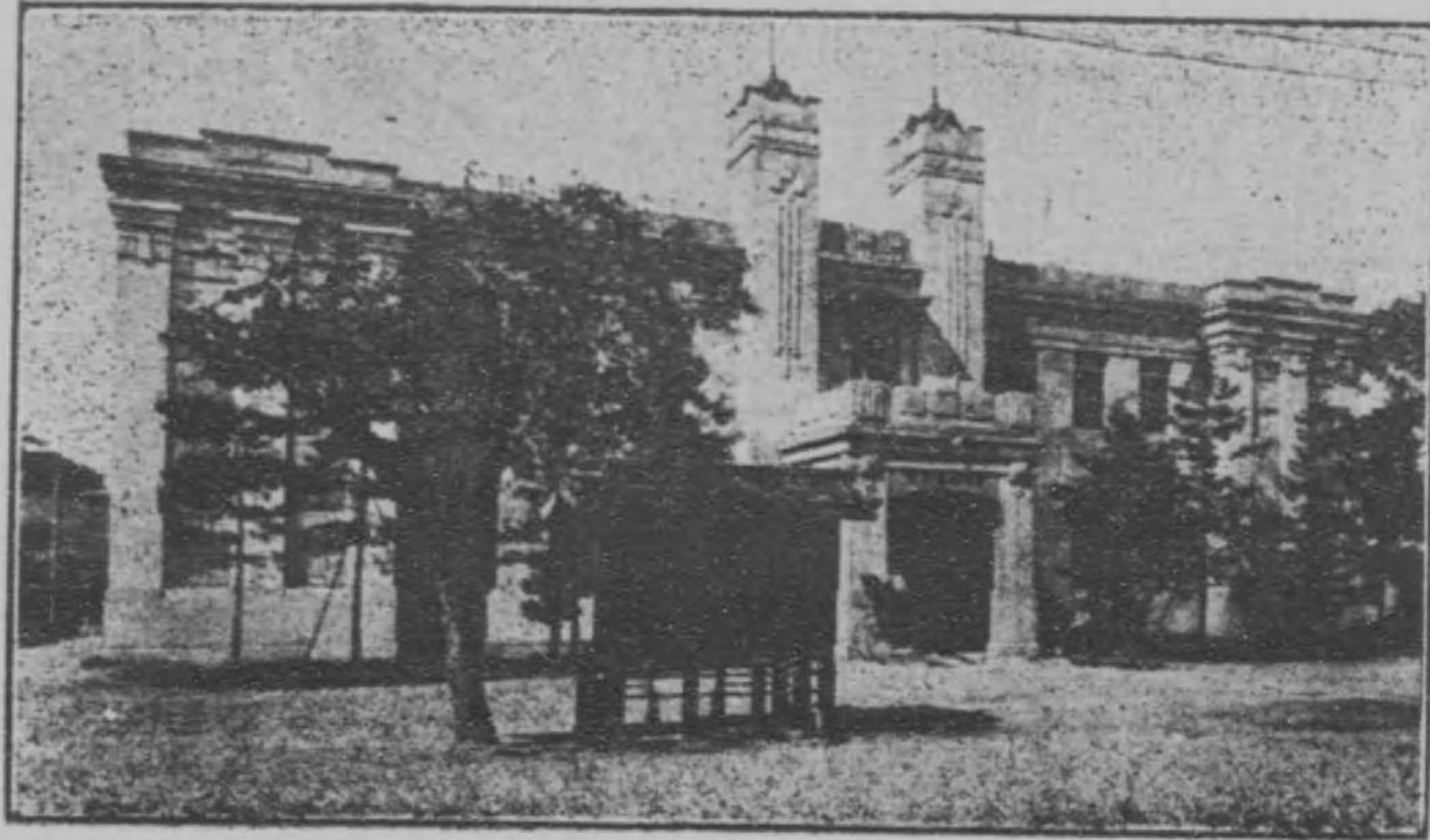
設立 明治十七年

目的

巖手縣商工業の發展助勢 同上紹介機關

縣物産の陳列觀覽 參考品(縣内外)の陳列觀覽

同陳列所は縣經營にして明治十七年設立し當初巖手縣物産館と稱へ次て巖手縣商品陳列所と改稱し縣商工業の獎勵機關たり







株式會社

### 盛岡銀行

位置 盛岡市紺屋町百貳拾貳番地

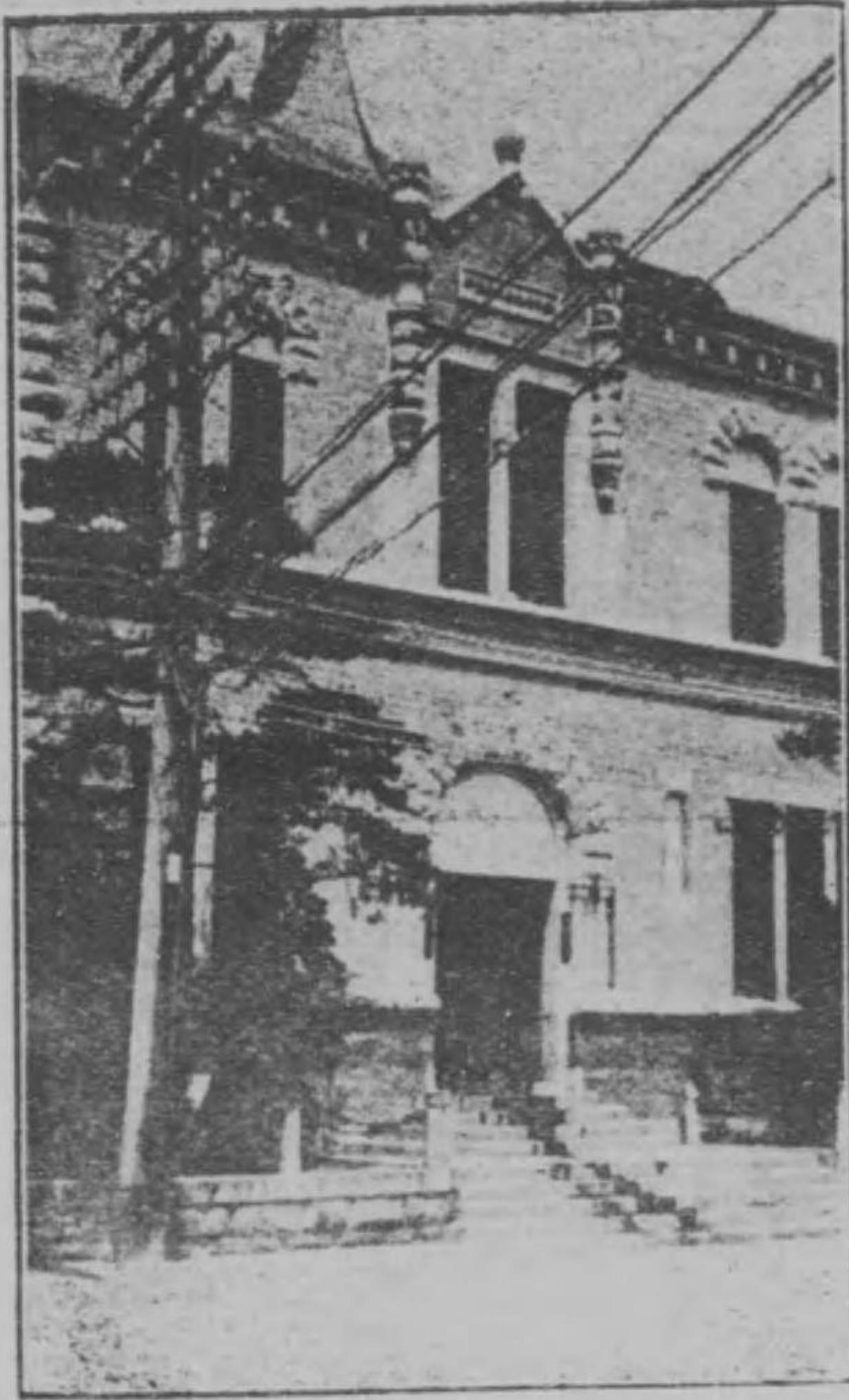
設立 明治廿九年五月一日

總資本金 七百萬圓

拂込資本金 貳百九拾壹萬貳千五百圓

積立金 百參拾萬圓

本市唯一の銀行にして又東北に於ける金融機關の重鎮たり三十有餘の支店と二十五の派出所を三陸の各地に設置し取引の迅速と正確なることは彌々信用を高め今日の隆運を致せる所以なり



### 株式會社 第九十銀行

位置 盛岡市吳服町十八番地

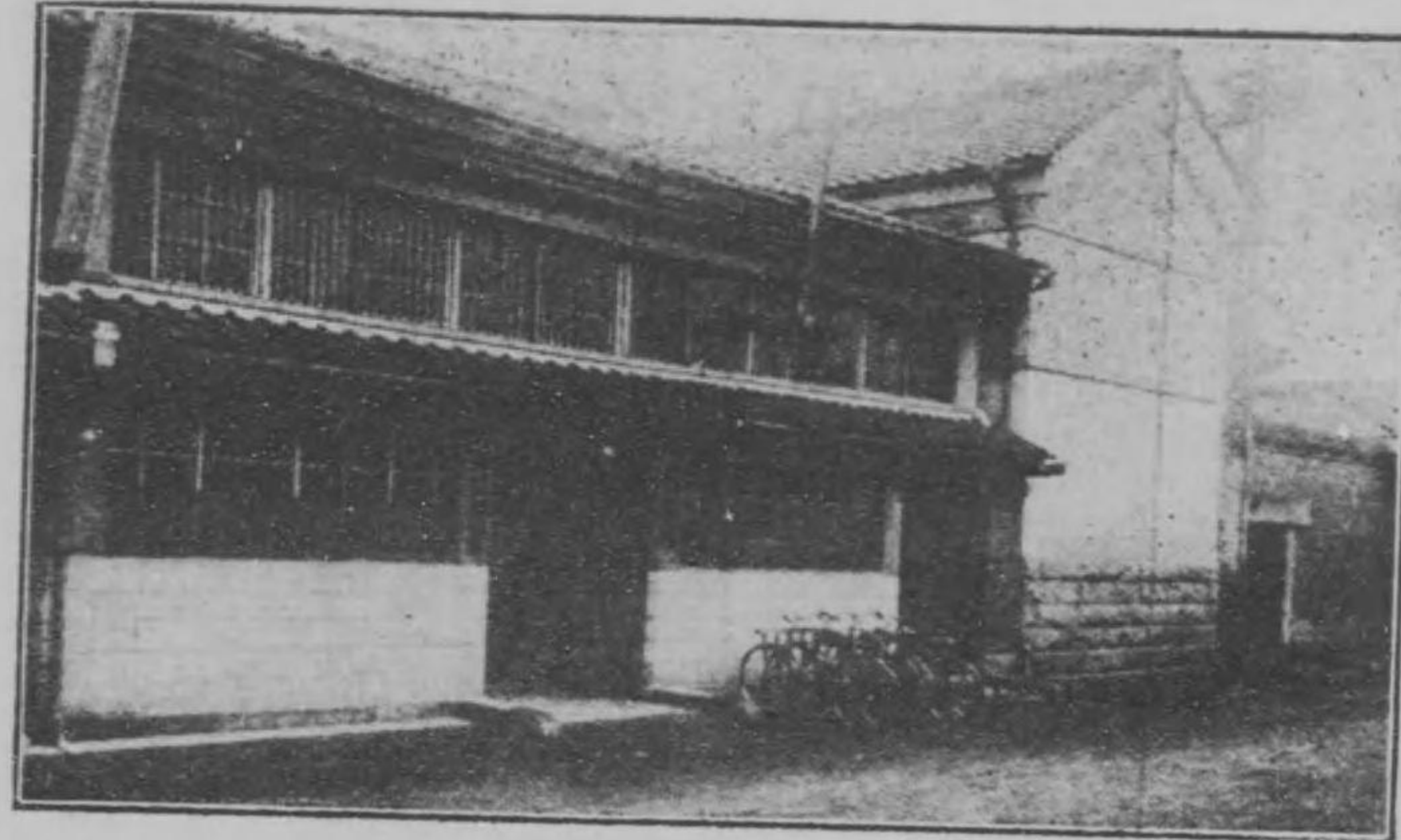
設立 明治十一年十二月二日

總資本金額 貳百五拾萬圓

拂込資本金 百七萬五千圓

積立金 五拾八萬七千圓

嘗て國立銀行として識られ本市に於ては最も古き銀行にして信用厚く現下十六ヶ所の支店と八箇所の出張所を有し金融機關の白眉なり



株式會社 岩手銀行

位置 盛岡市吳服町三十六番戸  
設立 明治四十年七月七日

總資本金 參百萬圓  
拂込資本金 壹百五十萬圓  
積立金 四十萬圓

盛岡、九十と共に本市三大銀行の一として信用日に篤く管内に二十二箇所の支店出張所派出所を設置し産業界に寄與する所甚大なり

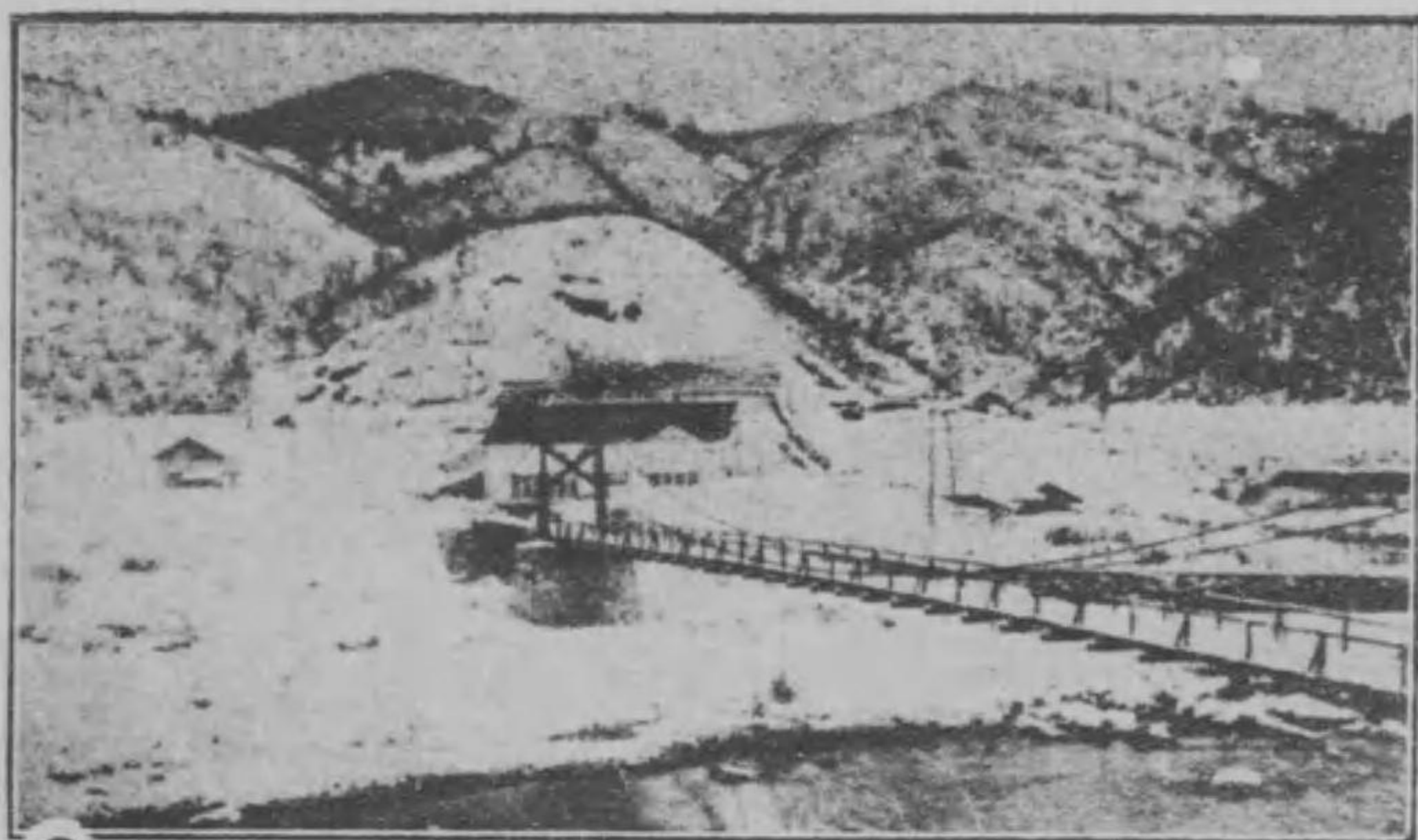


株式會社 巖手縣農工銀行

位置 盛岡市本町百四拾番戸  
設立 明治卅一年七月十五日

總資本金 貳百萬圓  
拂込資本金 百貳拾五萬圓  
積立金 六拾七萬九千四百五拾七圓

一ノ倉貫一氏を頭取とし取引確實信用甚だ厚し縣下農工業の發達に貢獻せし所極めて大なり



株式會社 盛岡電氣工業株式會社

位置 盛岡市紺屋町二十七番地  
設立 明治卅七年七月廿七日

目的 電燈點火、電力供給、電氣器具の販賣及貸付、各種電氣製品の製造販賣、人造氷製造販賣、軌道及鐵道敷設、一般運輸事業及前各項に附帶する事業、

資本金 六百六拾萬圓

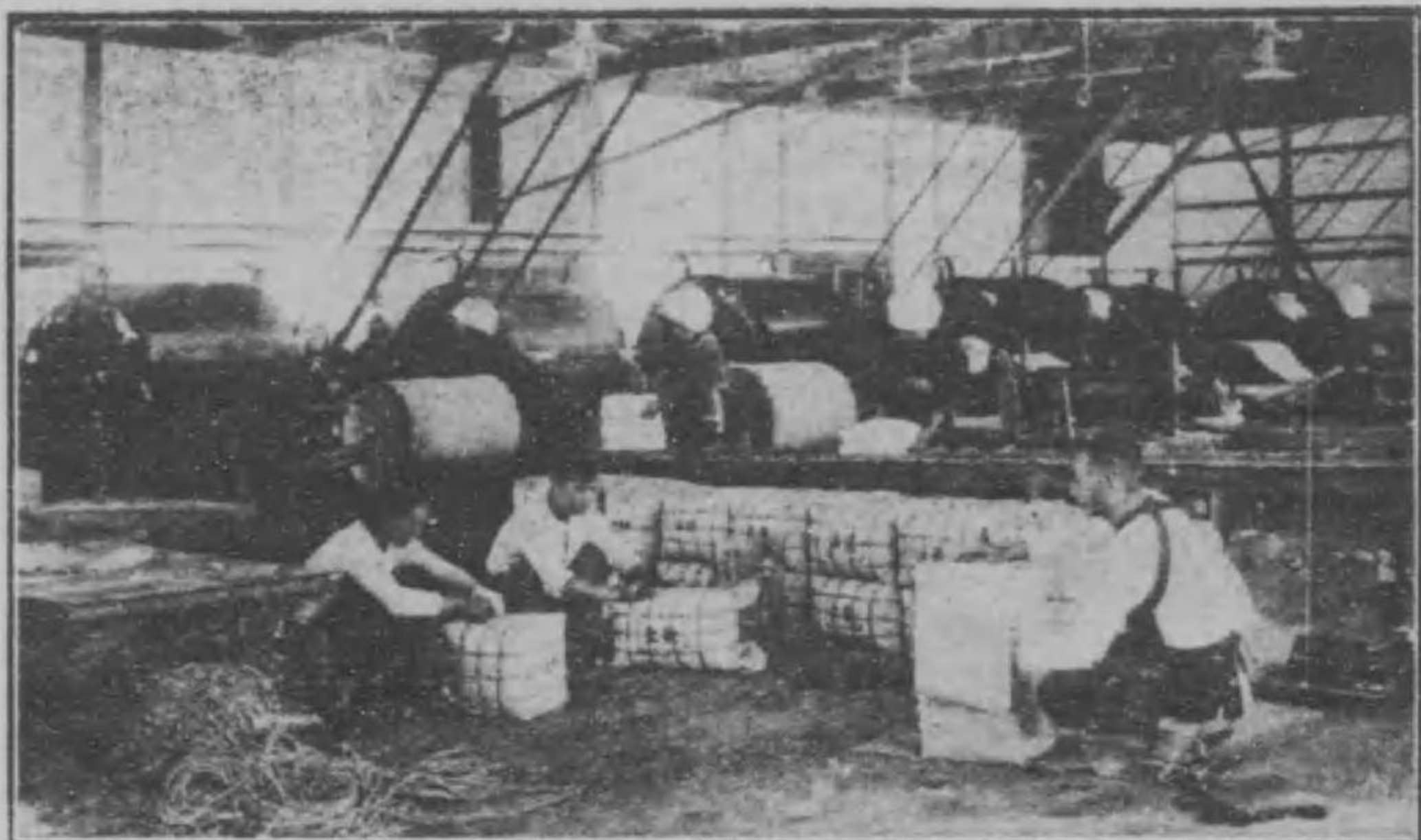
拂込金 參百七拾九萬壹千五百圓

積立金 貳拾萬四千八百貳拾九圓四拾錢

製産高 合金鐵五千噸以上、銑鐵五千噸以上、

カーバイト一千噸以上、製氷(日産)卅五噸、

發電所を鑿川。葛根田。岩根橋。黄金山の四ヶ所に設け電力供給區域實に盛岡市及び岩手。紫波。稗貫。和賀。上閉伊の一市五郡に及び縣下電氣工業界に於ける權威たり



株式會社 盛岡製綿株式會社

位置 盛岡市東中野松尾前

設立 明治四十四年五月廿五日

目的 各種製綿、布團製造及晒事業

資本金 參拾萬圓

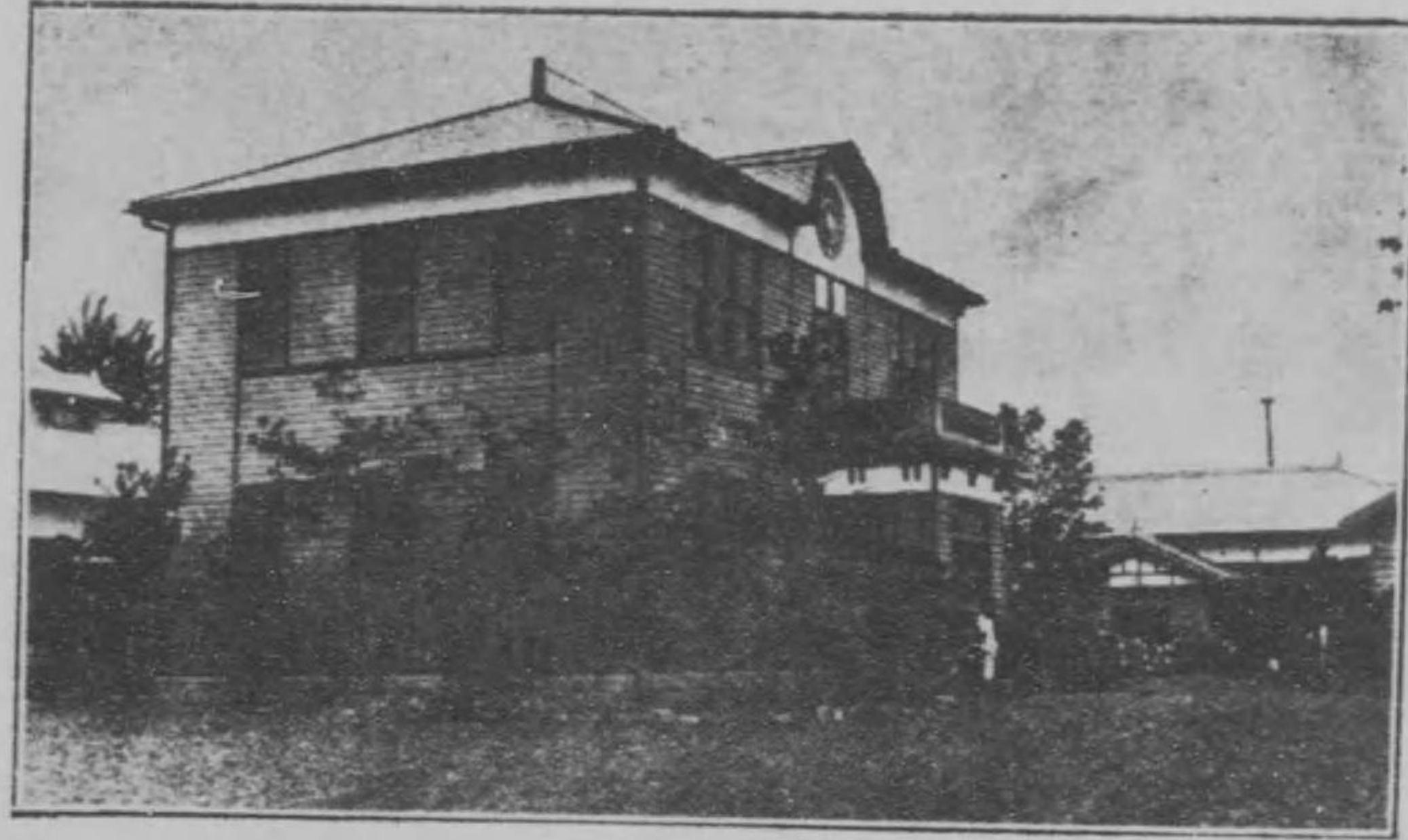
拂込金額 拾八萬圓

積立金 五萬五千圓

製産額 拾貳萬貫

販路を巖手、青森、宮城、秋田の各縣に有し東北唯一の製綿業者たり

製品の優良と確實なる取引方法とは以て顧客の信用を博し年と共に隆昌を極め事業益々擴張しつゝあり



株式會社 川口荷札株式會社

位置 盛岡市日影門外小路

設立 大正三年七月

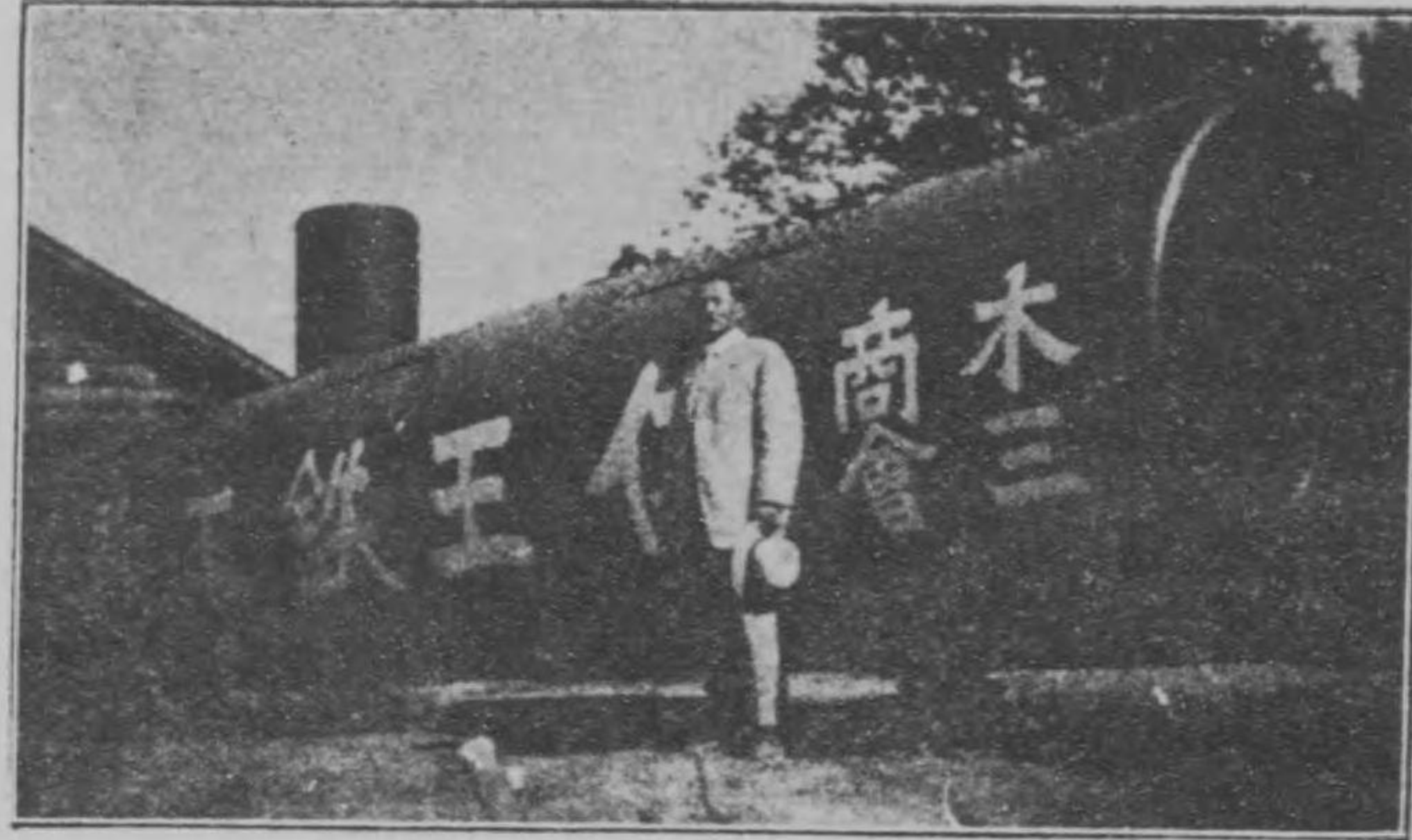
總資本金 拾五萬圓

目的 紙荷札の製造販賣、印刷事業

一日の製産能率 荷札百二十萬枚

同社は元歳弘松人の個人經營にして明治三十七年の創業に懸り其後株式組織に改めたり

嶄新なる諸機械の設備と製産能率増進の整備とは當市稀に見る所のものなり



株式會社 木三商會

位置 盛岡市肴町

設立 大正八年七月五日

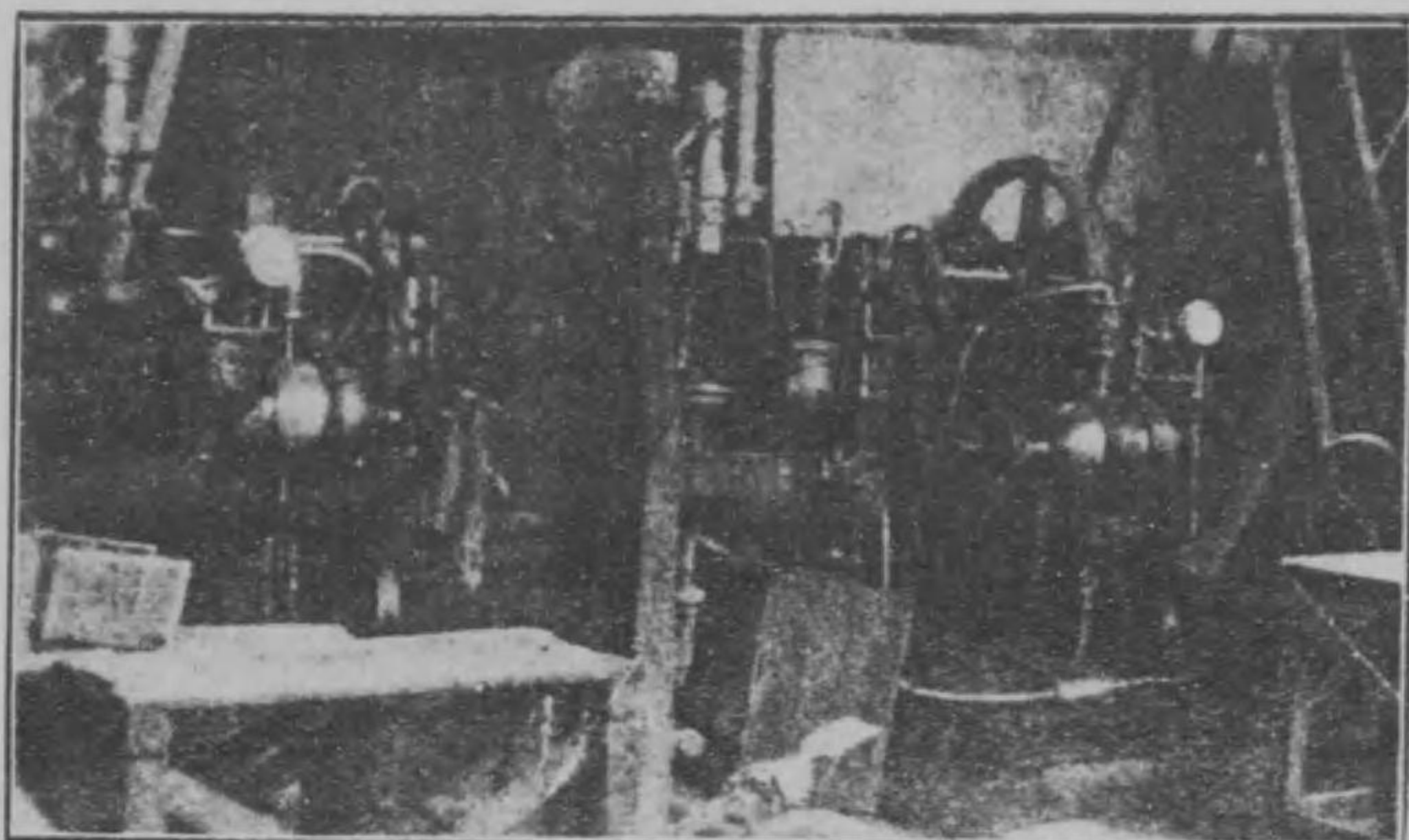
營業種目 鋼鐵材諸機械販賣

總資本金 參拾萬圓

拂込資本金 七萬五千圓

積立金 壹萬四千圓

同店は元木津屋と稱し専ら金屬製品の販賣店として著名なりしが大正八年株式會社に改め業務を擴張せり



株式會社 常盤サイダー株式會社

位置 盛岡市馬町二十一番地  
 設立 大正二年二月

目的 清凉飲料の製造販賣及飲食料品の販賣

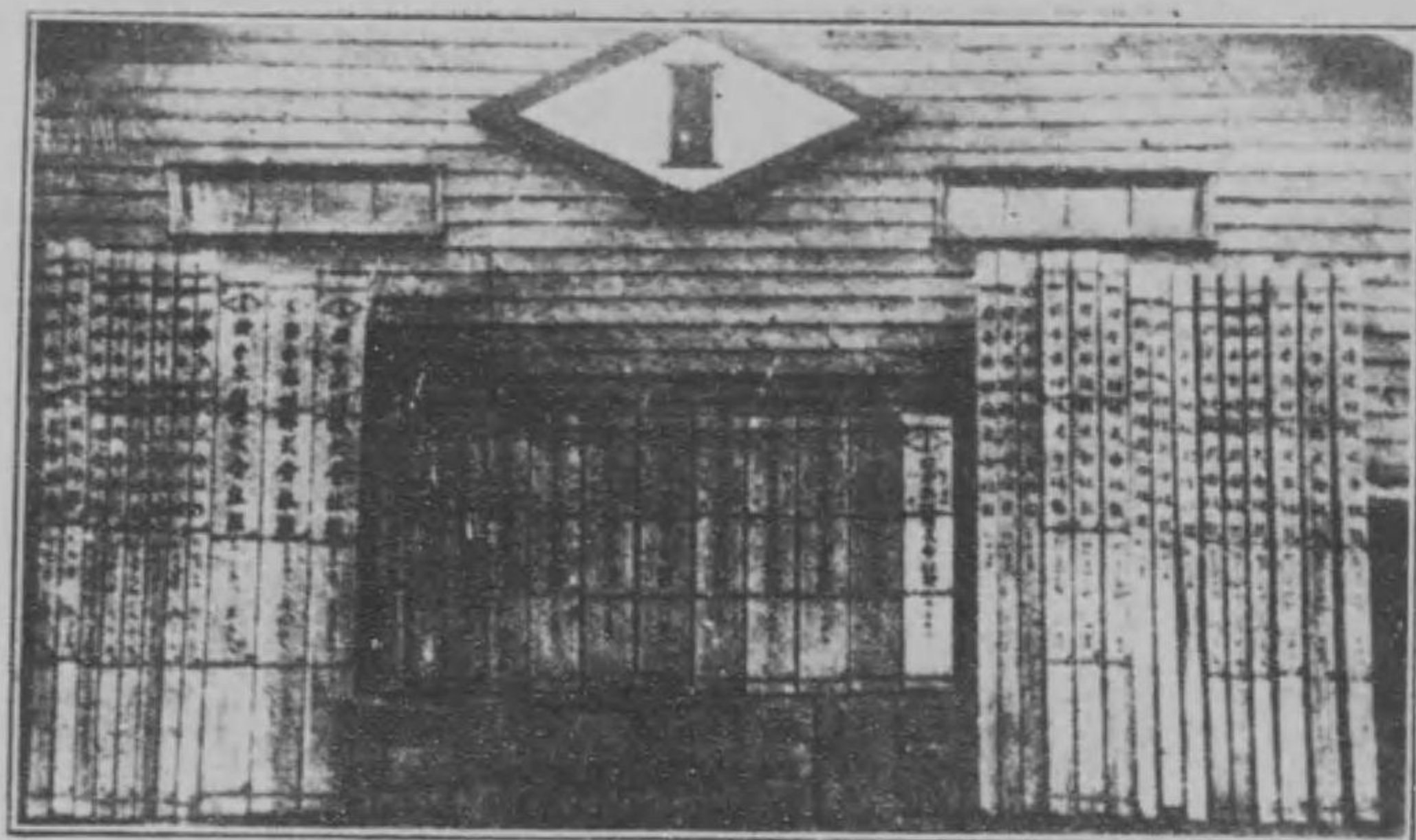
積本金 五萬圓

拂込資本金 四萬圓

積立金 四千圓

製産及販賣高 參百五十萬本  
參拾七萬圓餘

製品は普通サイダー及グレボンの二種にしてグレボンは當地方特産の葡萄を加味し特種の芳味を有するを以て廣く好愛せらる販路は北海道、東京、福島、青森の諸縣なり



株式會社 岩手木材株式會社

位置 盛岡市下厨川平戸

設立 大正九年五月

資本金 壹百萬圓

拂込資本金 四拾萬圓

營業目的 各種木材の伐出製材、販賣及鐵道用枕木薪炭等に附帶する諸般の事業

當會社は主として有名なる三陸地方の赤松及び青森大林區署管内の樅材を原料として製材販賣し市場に好評を博しつゝあり特に松六分板は最も特色を有し會社の誇とするものなり



株式會社 岩手商會

位置 盛岡市茅町二十一番戶  
設立 明治四十一年六月廿日  
營業の目的 米、雜穀、燕麥、馬飼料、乾草、牧草、糠、糖、各種肥料、農産種子、驅蟲用粉煙草、薪炭等の販賣  
資本金 拾萬圓  
拂込金額 貳萬五千圓  
積立金 壹萬貳千圓

同商會は本市に於ける諸官衙、軍隊、種馬所の用途等として著名なり



株式會社 巖手林業株式會社

位置 盛岡市大澤川原小路九十六番戶  
設立 大正七年四月廿九日  
目的 造林請負、設計、林地林産物賣買、山林種苗販賣、林野測量及製圖、林野林産物鑑定評價、一般植林業務  
總資本金 貳拾萬圓  
拂込資本金 拾萬圓  
山林苗生産高 一ヶ年 貳百七拾萬本  
種子販賣高 同 六拾石  
苗木販賣高 貳百參拾萬本

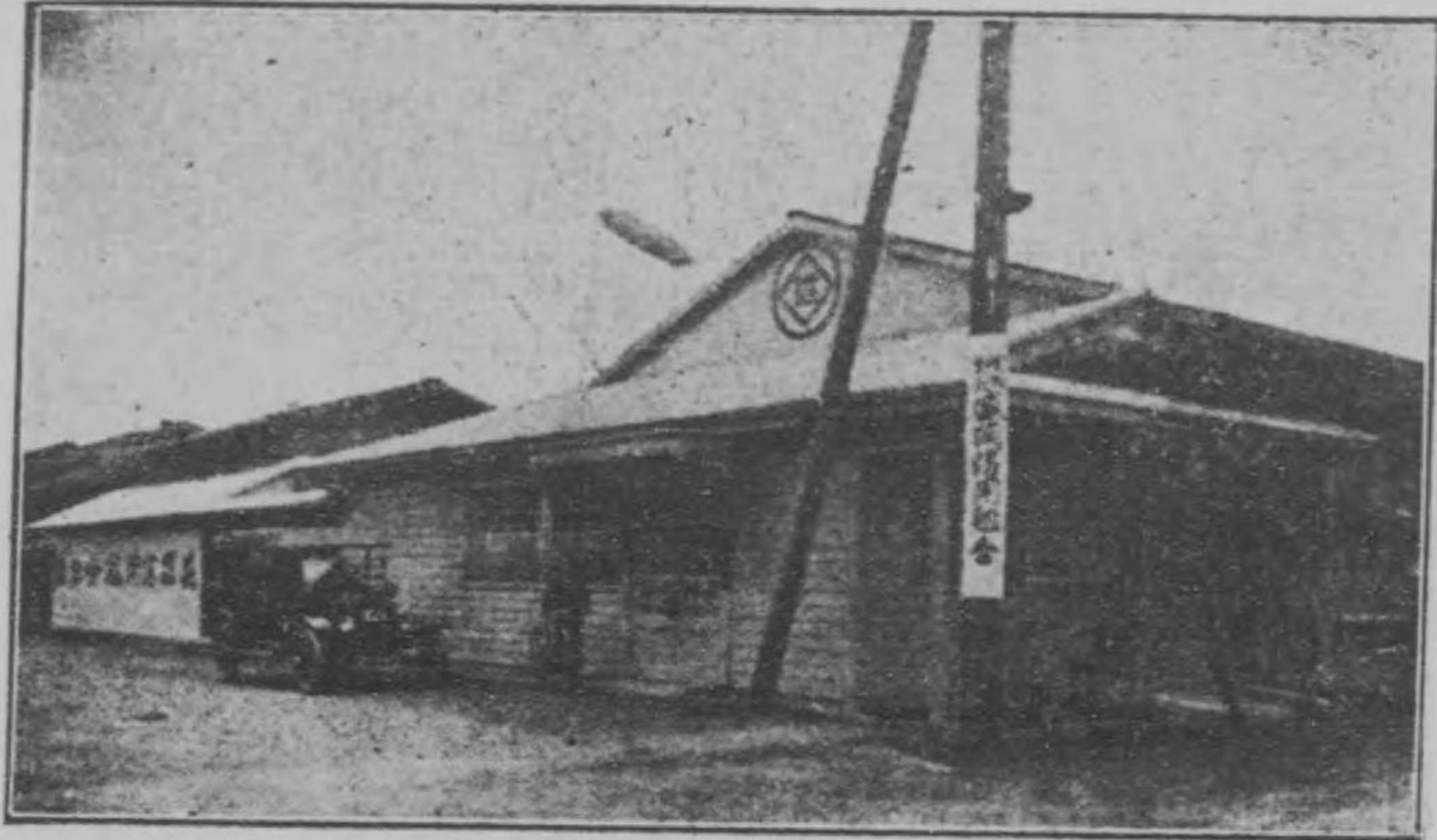
會社有苗圃は岩手郡瀧澤村にあり瀧澤驛より十數町生産苗木は優良健全なるを以て其名を識らる



### 南部鐵瓶同業組合

事務所 盛岡市内丸巖手縣商品陳列所内  
 地區 盛岡市一圓、岩手郡淺岸村、米内村、中野村、本宮村、厨川村等  
 設立 大正九年八月五日  
 目的 組合員營業上の弊害を矯正し其利益の増進を目的とす  
 地區内一ヶ年の製産高 壹百萬圓

本組合は組合員百五拾有餘名を有し南部鐵瓶業界の改善機關たり製品は検査して商標及合格證を貼付し信用を明かにせり



### 有限責任 盛岡信用組合

位置 盛岡市六日町百〇番戸  
 創立 明治三十六年一月十九日  
 組合員數 千百八人  
 出資口數 六千百八十六口  
 拂込金額 八萬九千五百參拾參圓  
 積立金額 貳萬八拾參圓  
 貯金 拾參萬四千九百九拾八圓

本組合は市街地に於ける信用組合中最も優良なる組合として産業組合中央會より最初の表彰（明治四十一年五月）を受け設立以來年々事業を擴張し前掲の成績を示すに至れり



### 南部鑄金研究所

位置 盛岡市外米内村三ッ割字愛宕下  
目的 茶ノ湯釜。鐵瓶。花器其他ノ鑄造研究指導

特種事項

銅鐵器、貴金屬の鑄造各種の模範的製作

を爲す就中美術及美術工藝品を主としたる肖像。室内裝飾品、日用品に屬する技術者の養成を爲す

本所は盛岡鑄造業の發展に資せんとの趣旨にて舊藩主南部伯爵の直營せらるゝ所なり設立以來拾有壹年模範的製品と優良なる技術者を輩出し南部鐵瓶業界に貢獻する處大なり



### 南部紫根染研究所

位置 盛岡市新穀町五番地

經營者 中村省三

設立 大正五年十一月三日

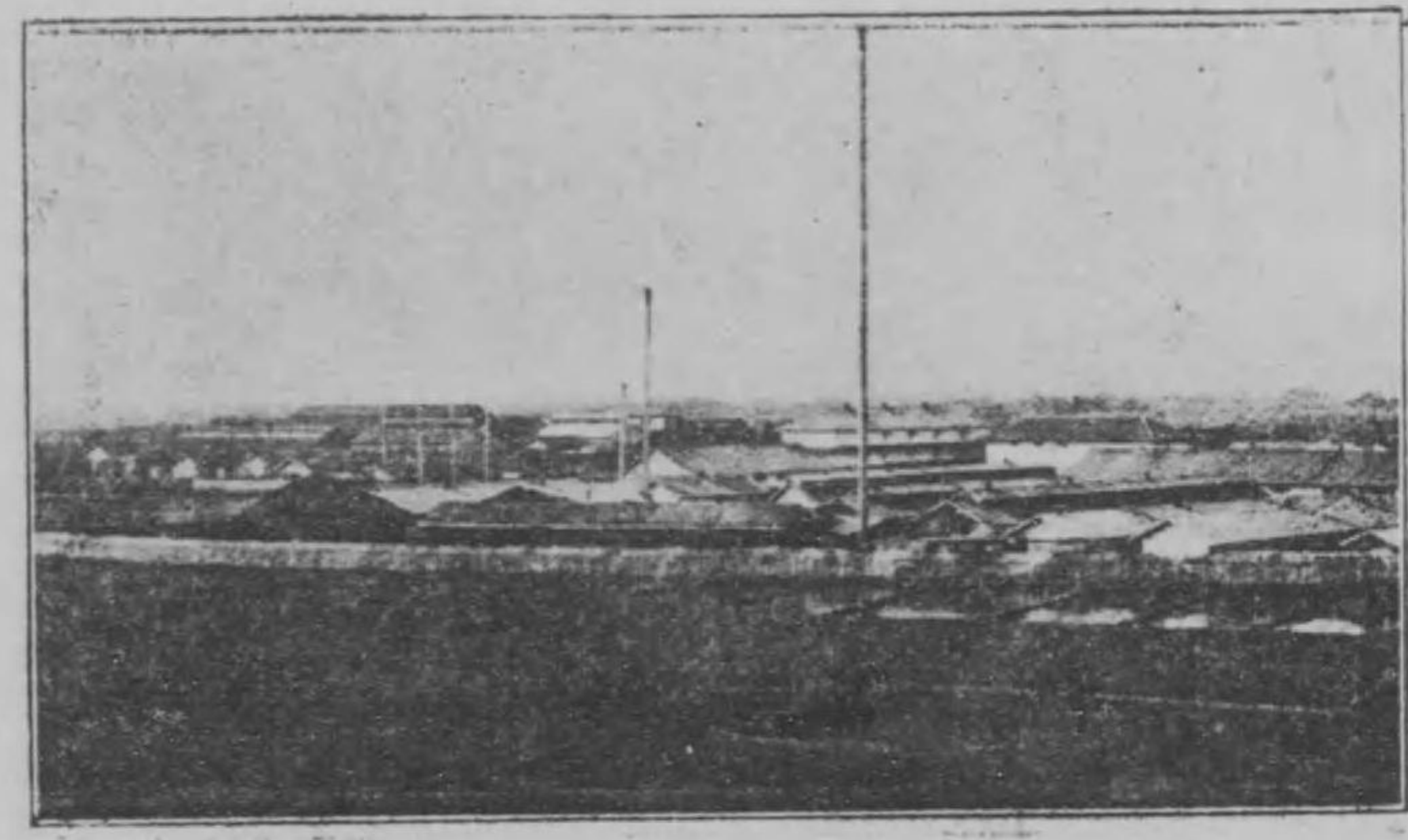
目的 一、紫根の染法。二、紫根利用

三、紫根の培養。四、絞り研究

五、絞工の獎勵。

著名なる南部紫根染の復興を圖り其研究機關として中村省三氏の直營するところたり工場を市内加賀野に置き銳意改良に努めつゝあり





### 尾澤組盛岡製絲所

位置 盛岡市下厨川字三十軒  
 設立 明治四十年七月  
 釜 數 三百四十八釜

年産額 九百五十捆 此貫數凡八千五百五十貫

本所は長野縣諏訪郡平野村尾澤琢郎氏の經營する處にして即ち明治四十年尾澤組分工場として建設せられ爾來十有七年専ら巖手縣内に於ける良繭を聚めて製絲するを以て斯界に著名なり



### 盛岡タオル商會

位置 盛岡市吳服町壹番戶  
 經營者 中村 熊太郎  
 工場 盛岡市三戸町三十二番戶  
 設立 大正五年四月十五日  
 目的 森鍵式タオルの製造販賣  
 資本 五萬圓  
 積立金 八千圓  
 製造販賣高 一ヶ年五萬ダース

森鍵式タオル織機は森鍵忠五郎の發明特許を受けたるものにして動力機及足踏機の二種ありて使用最も簡に製品亦特種の優美なる點を有するを以て廣く好評を博するに至れり



### 榊 吳 服 店

位 置 盛岡市肴町

經 營 者 榊 岩 五 郎

營 業 種 目 吳服太物の販賣及京染等の仲介、吳服細工品、婚禮調度其他

本市肴町の一角に巍然として建つものを榊吳服店となす。品質精撰と時代流行の先驅たるを以て名とり本市唯一の吳服店たり



### 川 德 吳 服 店

位 置 盛岡市肴町

經 營 者 川 村 徳 助

營 業 種 目 吳服太物。洋物洋小間物。小物吳服等  
創 業 明治八年

本市商業中心地たる肴町に在り其施設經營と取引振は榊吳服店と伯仲し糸治吳服店、宮重吳服店、榊吳服店と共に四大吳服店と稱せられ當市の重きをなせり



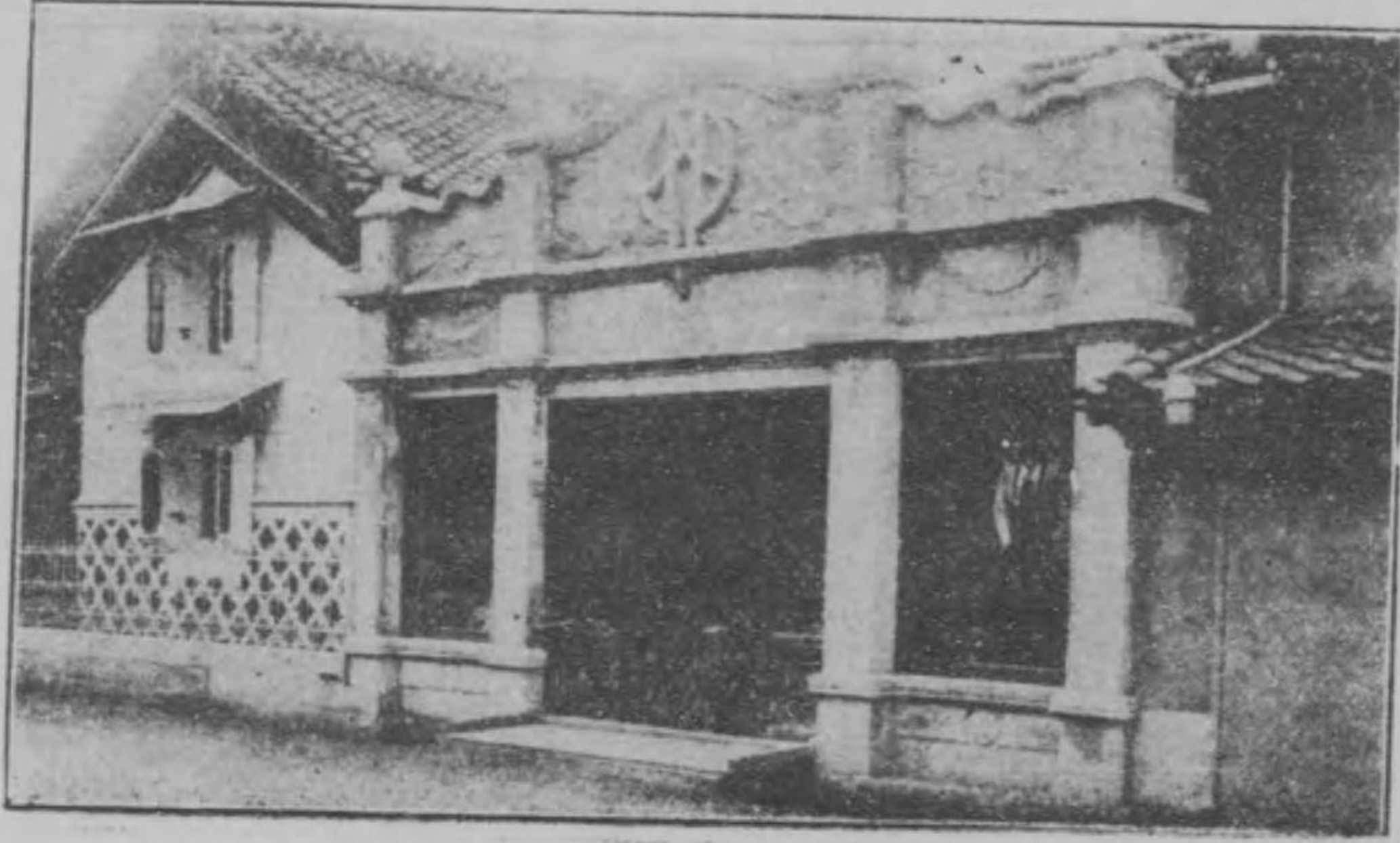
### 宮重 吳服店

位置 盛岡市材木町

經營者 宮田重治

營業種目 吳服太物及麻布卸小賣

同店は盛岡市四大吳服店の一にして確實を以て著はる店は河北繁榮の中心地たる材木町にあり巖手縣北西部商取引上の重鎮たり特に麻布の如きは古來地方生産品を一手に販賣せられ現今一ヶ年一萬五千反以上を取扱ひ遠く大阪方面に移出して南部麻の名を識らるゝに至れり



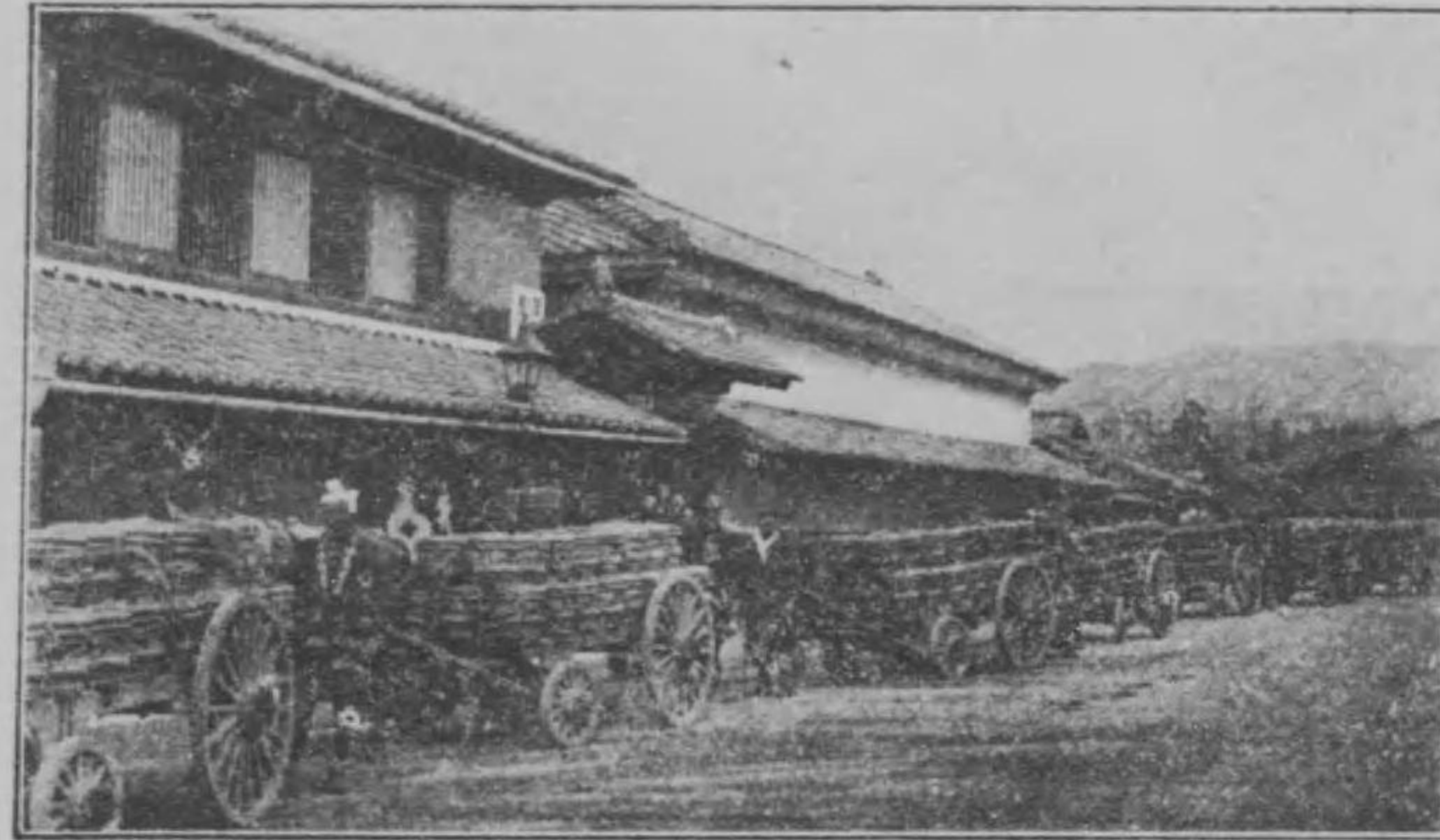
### 永卯 洋物店

位置 盛岡市肴町

經營者 佐々木 卯太郎

營業種目 各種洋物。家具、漆器、履物、小間物  
化粧品其他

同店は盛岡市洋物店中の最も大なるものにして而かも市の商業中心地たる肴町の中央に榊吳服店と對峙して市繁榮の重きを爲せり



### 井 彌 醬 油 店

位 置  
經 營 者  
創 業  
目 的  
特 色

盛岡市紙町

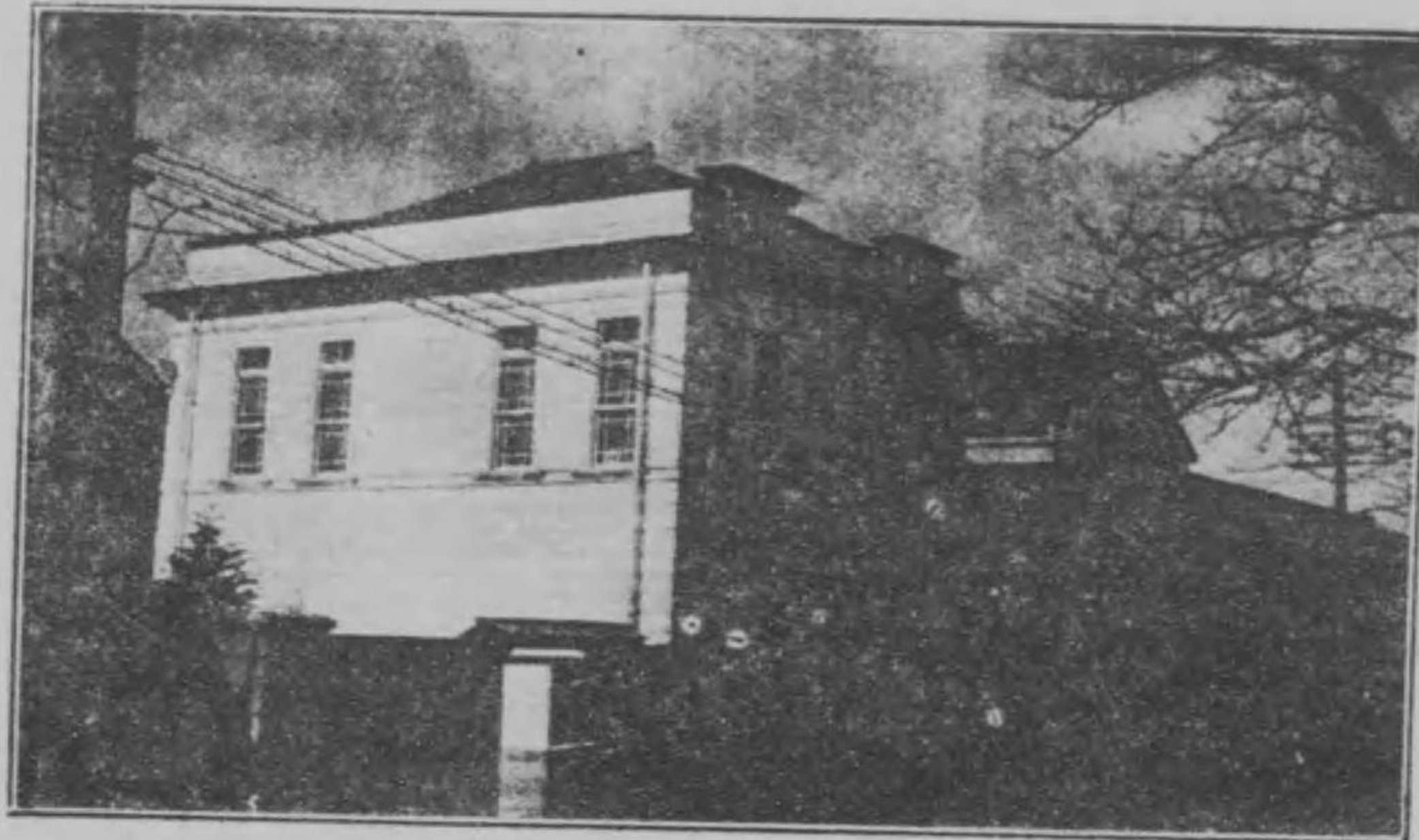
村 井 昌 八

明治十八年二月一日

醬油。味噌。酢。醸造販賣業

醬油一千五百石、味噌三萬貫、酢三百石

醬油は優秀なる南部大豆及小麥を原料として濃淡二種に醸造し濃厚なるは野田銚子産に代り淡白なるは品質龍野産に優されり、味噌は其製法他に異なり古來南部味噌と稱し獨特の香味を有す酢は又酸味強烈なる風味の佳良なるを以て稱せらる



### 三 田 商 店

位 置  
設 立  
經 營 者  
目 的

盛岡市内丸三十四番戶

明治二十七年

三 田 義 正

内外火藥、爆藥、雷管、導火線類、銃砲及附屬品、カーバイド、板硝子、セメントの販賣、保險業代理店  
牧場の經營

支店を東京、秋田、函館、札幌、室蘭等に置き前記特種商品を東北及北海道に於て殆んど專賣的に販賣する大商店なり



### 村井酒造店

位置 盛岡市鉈屋町百五十三番地  
村井源三

目的 酒類の醸造及販賣

清酒 壹千五百石

白酒 七十石

焼酎 八十石

支店 盛岡市肴町

本店は主として醸造に支店は販賣に従事し本市酒造界の覇をなす、銘酒のを開の名最も著名なり



### 岡源製油所

位置 盛岡市穀町參百參番地

經營者 岡田源太

特種製油 在油登録商標南部印

一ヶ年製油高 貳百石

創業は文化年中にして先々代岡田源太氏の創設に係り原料は北上川沿岸に産する在種にして製油は最もゴム質に富み各種防水塗料として賞用せられ古來京阪地方に移出して名あり、今や嶄新の搾油機を備へ電動力を應用し製油能力の増進を計るを以て南部印在油の名聲と共に年々増産しつゝあり



### 岡喜菓子種製造所

位置 盛岡市志家字餌差裏  
 設立 明治三十四年三月  
 經營者 岡田喜助  
 産額 參千石  
 販路 東北地方を中心とし南は京阪地方より  
 北は北海道に及ぶ

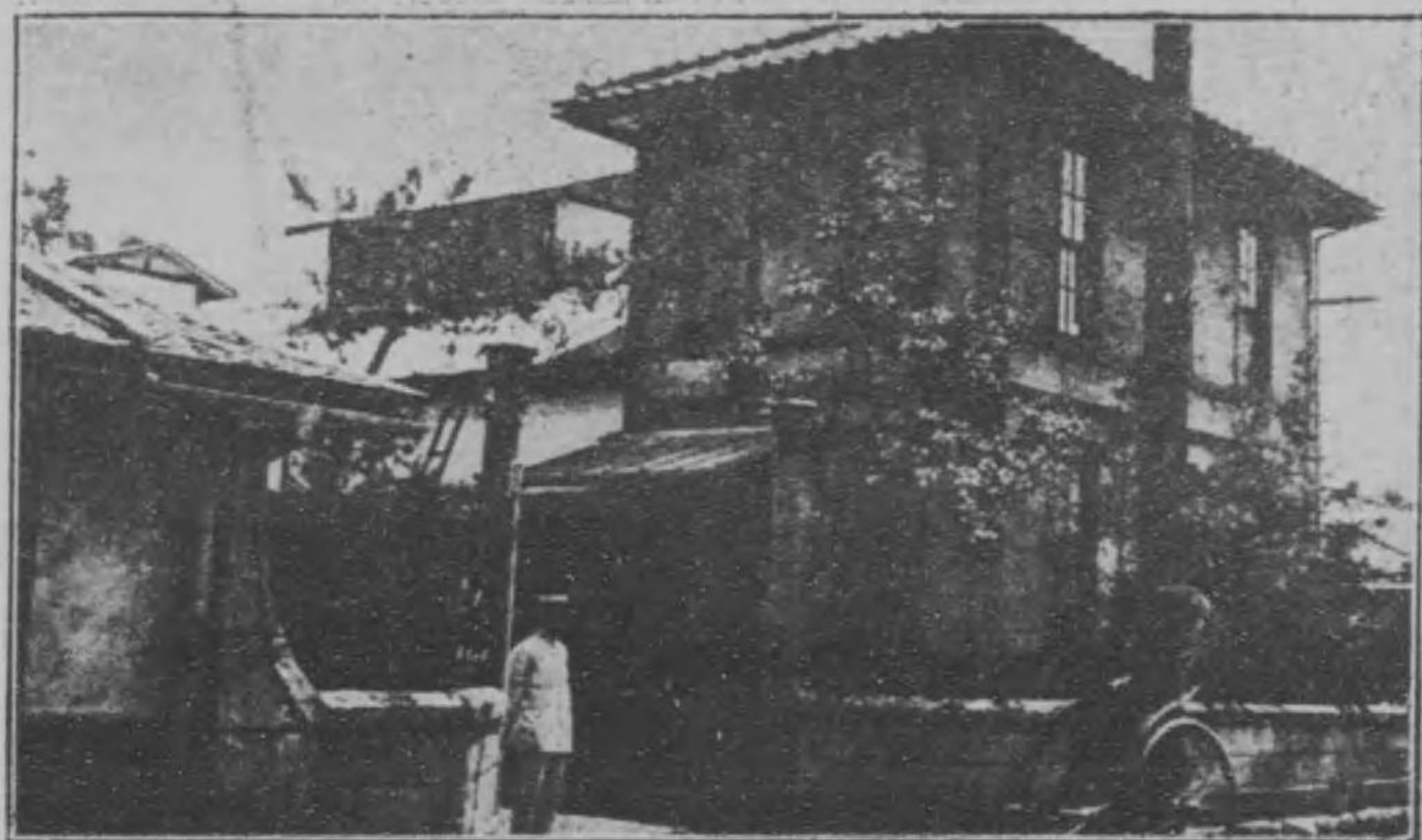
特長 本市附近は優良なる糯米の産地なるを以て之を原料として製造したる菓子種は最も卓越したるものと稱せらるる故に京阪地方に於ては本市産の微塵粉を輸入し之に寒梅粉なる名稱を附し更に各地へ移出せるを見る本市菓子種の如何に優秀なるを知るに足るべし



### 岩手焼合資會社

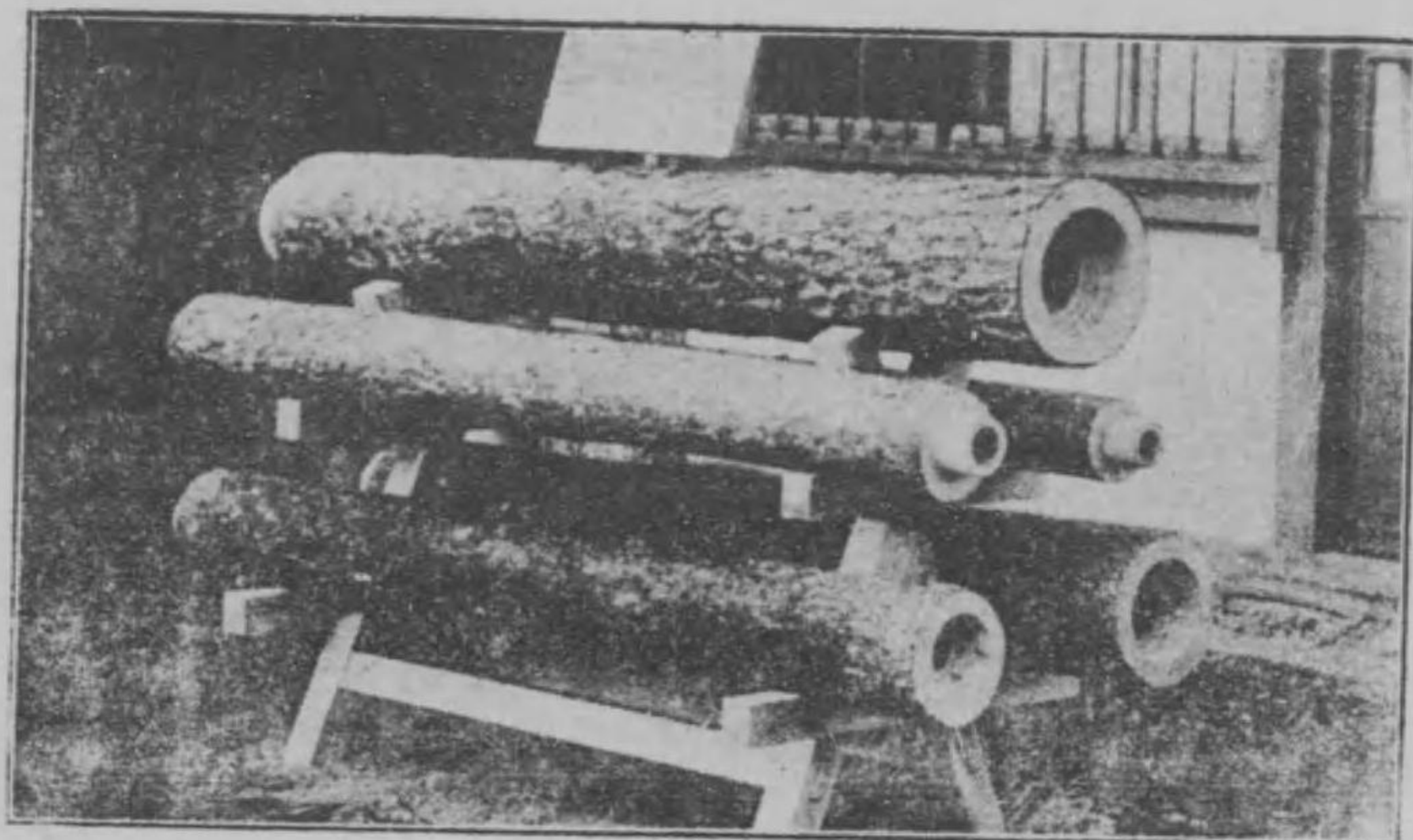
位置 盛岡市山岸  
 創業 明治四十年四月  
 資本金 壹萬四千圓  
 目的 陶器製造販賣  
 産額 壹萬圓

特長 朱泥。黄泥。黒泥の陶器は本來支那の特産として輸入せられ陶器中の珍として愛翫せらるる本邦に於ては僅かに佐渡及常滑に於て朱泥のみを産す本所産は故堀合卓爾氏の發見せる所にして各泥を通して製出す、而かも其特種の品質光澤は寧ろ佐渡、常滑に勝り斯業者間の讚美する所なり以て知るべし



### 福田機械製作所

位置 盛岡市大澤川原小路  
 創業 明治廿七年五月  
 経営者 福田 春 治  
 營業種目 鑛山諸機械、汽機汽罐、橋梁材料、製材  
 機械、洋式農具其他一般機械類の製作  
 年産額 參拾萬圓  
 販路 管内及近縣諸鑛山及北海道等  
 同所は個人の經營にして本市唯一の鐵工業者たり



### 渡邊木管製作所

位置 盛岡市大澤川原小路  
 創立 大正二年六月  
 經營者 渡邊 徳太郎  
 營業種目 水道用剝抜木管の製作販賣及製材業  
 産額 木管、大小を通し 一ヶ年壹萬本  
 本木管は場主渡邊徳太郎氏の發明に係る特許渡邊式  
 木管製作機に依り製造し原料は本縣特産の赤松材を  
 使用せるものなれば水道引用温泉引湯用として耐久  
 力あるを以て廣く賞用せられつゝあり



### 有坂商店

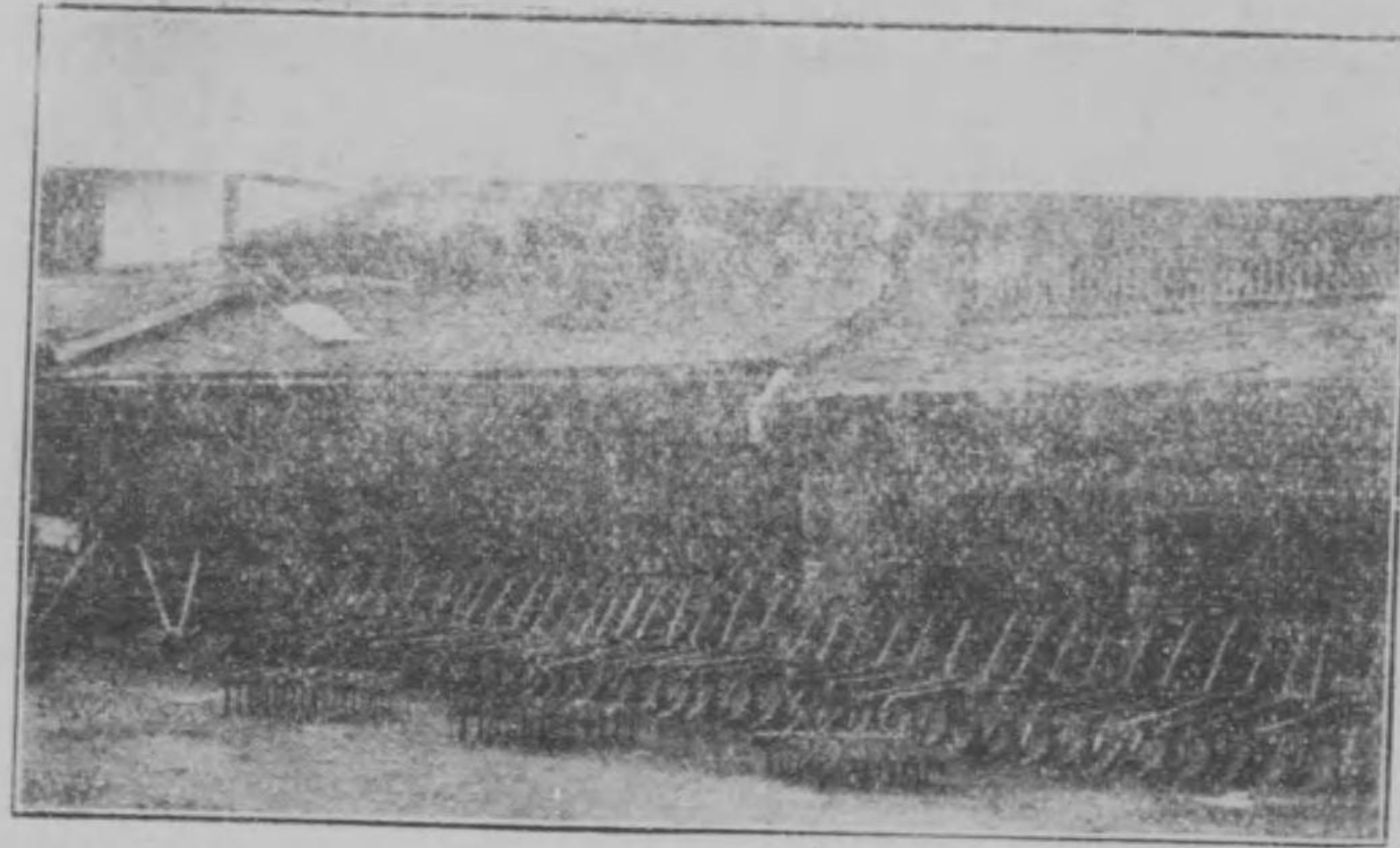
營業所 盛岡市紙町二番戸  
工場 盛岡市下小路

經營者 有坂 安太郎

營業種目 南部鐵瓶、茶の湯釜、其他鑄鐵工藝品の製作販賣

年産額 五萬圓

同人は現代に於ける南部鐵瓶業界の名工中の名匠なり其の先遠く室町時代の有坂茂右衛門より出て世々鑄物師として南部藩に奉仕し最も著名なり



### 鈴木農具製作所

位置 盛岡市川原町

創業 明治三十五年六月

經營者 鈴木 嘉右衛門

目的 各種農具製造販賣

製産額 年額五萬圓

同所は當市農具製造の白眉にして改良農具の製造を目的とす特にプラオの製作は最も優秀にして顯はる





### 村源商店

位置 盛岡市肴町

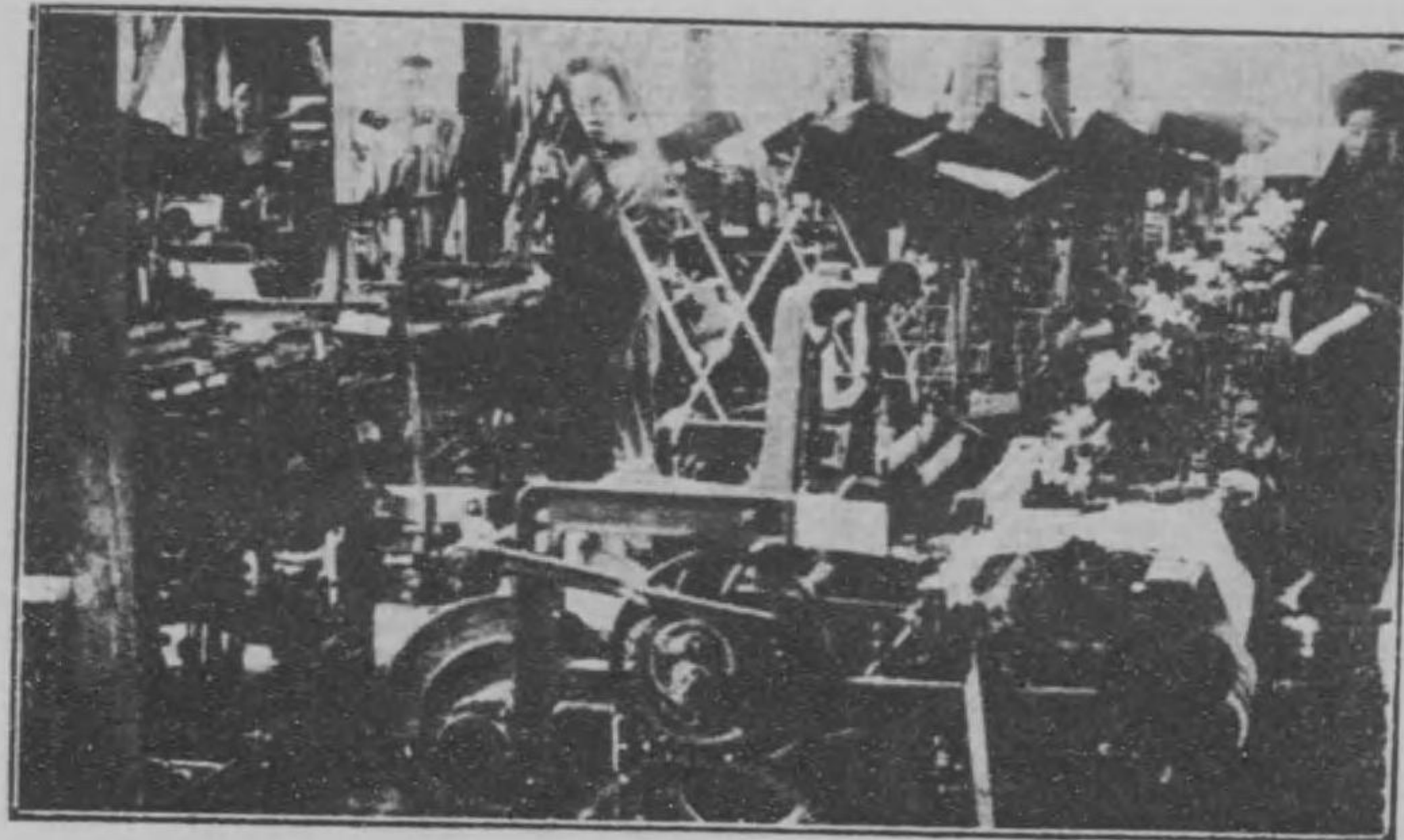
經營者 村井源之助

營業種目 藥種藥劑、醫療器、各種塗料、染料、

セメントの販賣及量衡器の製作

工場 盛岡市餌差小路

同商店は本市に於ける藥種藥劑店としての老舗にして又量衡器の製作販賣者として著名なり



### 株式會社 盛岡織物株式會社

位置 盛岡市加賀野二十一番戶

設立 明治四十一年五月

目的 綿織物の製織販賣

資本金 五萬圓

拂込資本金 參萬七千五百圓

積立金 五千參百圓

製産高 五萬反

販路 縣内及宮城、青森、秋田の諸縣北海道

り 同社は南部地織の改善と共に販路も地方的に需め染織の堅牢と品質の強靱とは同社製品の誇とする所なり

會社銀行

會社種類	名稱	所在地	設立年月日	營業ノ目的	資本金	諸積立金
株式會社	第九十銀行	吳服町	明治十一年	普通銀行業	二、五〇〇、〇〇〇円	五七、六六六円
同	盛岡銀行	紺屋町	同二十九年	同上	七、〇〇〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇
同	岩手縣農工銀行	本町	同三十一年	農工銀行法ニ依ル	二、〇〇〇、〇〇〇	六六、四五七
同	盛岡電氣工業株式會社	紺屋町	同三十七年	電燈電力供給	六、六〇〇、〇〇〇	一七四、三三九
同	岩手銀行	吳服町	同四十年	普通銀行業	三、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
同	盛岡織物株式會社	加賀野	同四十年	製織業	五〇、〇〇〇	五、〇〇〇
同	岩手商會	茅野	同四十年	動物飼料肥料穀類諸官衙用達業	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
同	盛岡製綿株式會社	松尾前	同四十四年	製綿業	三〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
同	盛岡海產物委託販賣株式會社	上衆小路	同四十四年	海產物委託販賣	二五、〇〇〇	一九、八〇〇
同	常盤サイダ株式會社	馬町	同四十四年	清涼飲料製造販賣	五〇、〇〇〇	五、〇〇〇

株式會社	名稱	所在地	設立年月日	營業ノ目的	資本金	諸積立金
株式會社	盛岡劇場株式會社	松尾前	大正二年	演劇興行	三〇、〇〇〇	—
同	盛岡黃金競馬株式會社	松尾前	同七年七月	競馬場貸與	二五、〇〇〇	—
同	盛岡魚市株式會社	上衆小路	同十二月	海產魚類委託販賣	五〇、〇〇〇	三、五〇〇
同	岩手酒造研究所	内丸	同同月	酒造研究	一〇、〇〇〇	六九九
同	川口荷札株式會社	日影門外	同三年七月	紙荷札及印刷物	一五〇、〇〇〇	一〇、九〇〇
同	岩手農蠶株式會社	大澤川原	同七年三月	農蠶具販賣蠶種販賣	一〇〇、〇〇〇	—
同	岩手製鐵株式會社	六日町	同同月	製鐵販賣	五〇〇、〇〇〇	—
同	岩手林業株式會社	大澤川原	同同月	造林及苗木養成	二〇〇、〇〇〇	—
同	岩手織布株式會社	上衆小路	同同月	廣巾縮木綿ノ製	五〇、〇〇〇	—
同	岩手木炭株式會社	平戸	同同月	製炭販賣業	一五〇、〇〇〇	五〇
同	盛岡無盡株式會社	八日町	同同月	無盡業	一〇〇、〇〇〇	二八〇
同	木三商會	香町	同同月	商品販賣	三〇〇、〇〇〇	八、六七〇
同	岩手無盡株式會社	内丸	同同月	無盡業	五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇

名	稱	事務所	設立年月日
巖手縣農會	巖手縣廳內	明治二十八年三月	
巖手縣產馬畜產組合聯合會	同	同	
盛岡產馬畜產組合	松尾前	同	
有限責任盛岡信用組合	六日町	同	
盛岡蠶業信用購買生產販賣組合	下小路	同	
盛岡靴工購買組合	六日町	同	
同 杜陵信用購買組合	巖手縣廳內	同	
同 盛岡洋服業購買組合	六日町	同	
盛岡菓子商組合	茅町	同	
盛岡醬油釀造組合	紙町	同	

株式會社	岩手興農株式會社	大澤川原	大正九年	農具製造及販賣	100,000	
同	盛岡青物市場	馬町	同	蔬菜果物乾物委託問屋	100,000	
同	巖手日報社	內丸	同	新聞發行	100,000	
同	井彌商事株式會社	紙町	同	太物卸商	600,000	
同	盛岡製餉株式會社	穀町	同	製餉業	50,000	
同	南部桐材株式會社	大澤川原	同	木履製造業及原料販賣	50,000	
同	岩手製氷株式會社	本町	同	天然氷貯藏販賣	100,000	
同	盛岡貯蓄銀行	紺屋町	同	貯蓄銀行業	1,000,000	
同	岩手木材株式會社	下厨川	同	製材販賣業開墾	1,000,000	
同	岩手日々新聞社	紺屋町	同	新聞發行一般印刷業	40,000	
同	盛岡博善株式會社	紙町	同	葬祭具供給裝飾請負	50,000	
株式會社	巖手每日新聞社	日影門外	明治四十年	新聞發行	30,000	10,000
同	小野商店	吳服町	同	肥料其他	30,000	

產業組合及實業團體

名

勝

南部鐵瓶同業組合	盛岡印刷業組合	盛岡小間物化粧品商組合	盛岡古物商組合	果樹栽培組合	盛岡疊刺業組合	岩手蠶種同業組合	盛岡豆腐商組合	盛岡織物商組合	巖手縣酒造組合	盛岡染物業組合	盛岡履物業商組合
巖手縣商品陳列所内	内丸	生姜町	内加賀野小路	材木町	鉈屋町	内丸	肴町	葺手町	日影門外小路	十三日町	川原町
同	大正五年八月	同四十二年一月	同四十二年八月	同四十一年一月	同四十年十月	同	同三十九年四月	同三十八年一月	同三十六年五月	同三十四年六月	明治三十一年七月

名

勝

盛岡	盛岡	盛岡	果樹	盛岡	岩手	盛岡	盛岡	巖手	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡
鐵瓶	小間物	古物	栽培	壘刺	蠶種	豆腐	織物	縣酒	染物	履物		
同業組	化粧品	商組	組	業組	同業組	商組	商組	造組	業組	商組		
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合		
巖手縣商品陳列所内	内丸	生加賀野小路町	内加賀野小路町	材木町	鉈屋町	内丸	肴町	茸手町	日影門外小路町	十三日町	川原町	
同	大正五年八月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十一年七月	
		四十二年一月	四十二年八月	四十一年一月	四十年十月		三十九年四月	三十八年一月	三十六年五月	三十四年六月		

北に岩手姫神の二秀峰聳へ、其山系東西に連亘して南方遙に平野を拓く、盛岡の市街はこの平原の一角に形成す、中津川の清流は市街を貫きて東西に走り北上の巨流之を享けて南に趨る附近丘陵出沒し天然の風光自ら備はれるのみならず、又歴史的名勝に乏しからず、今筆を市の中央巖手公園に起して探勝の知るべとせん。巖手公園は舊盛岡城趾を拓きて造る、高燥にして眺望に富み園林の構成奇趣を盡くし四季を通じて市民遊覽の適地たり石割櫻は裁判所の前庭にあり、一株の櫻樹花崗石を劈きて生え出でたる状は開花の候にあらずと雖も天下無比の奇觀として曳杖の價値を存す、歩を北方に轉ずれば先づ第一に東顯寺後庭にある三ツ石を見るべし三個の巨巖屹立せる状只奇なるのみならず種々の傳説を存せり、隣に本誓寺あり同寺の祖師像は親鸞上人の直作にして俗に黒佛と稱し又蓮冠の御眞影として其名國內に傳はる、故に賽者老弱隊を爲して遠近より詣するもの多し、五百羅漢を以て有名なる報恩寺は寺堂境内共に地方唯一の巨刹にして羅漢像は彫刻の妙技全國に冠絶せり、附近に片葉の蘆の舊跡あり尙北に進めば願教寺の巨刹あり内部輪奐の美地方稀に見るべし、更に進みて舊櫻山に至れば五重塔閣の初層に往昔の面影を偲ばしむ、山上には舊藩主南部家歴代の靈廟あり、之れより丘陵を傳ひ眺望を擅にしつゝ、高松の池に下れば周圍里許の池畔到る處風趣あり四季を通じて遊覽に飽かぬ地なるも就中春爛熳の頃は長堤花と人とを以て埋む、此地に近く八幡森あり前九年役の古戰場

名勝しるべ

盛岡中学校校歌(明治十二年創立)

一世に歌はれし浩然の

大元をここに集めたる

承秀雨霏高き山

清流長き此上や

山河自然の化を受け

けられは知らぬ白壁城

二、明治十二年春半は

礎固くた、まれば

星霜こゝに幾回裡

しるしの松の色映えて

覇者之の聲は日に月に

世に響きくこそ嬉しけれ

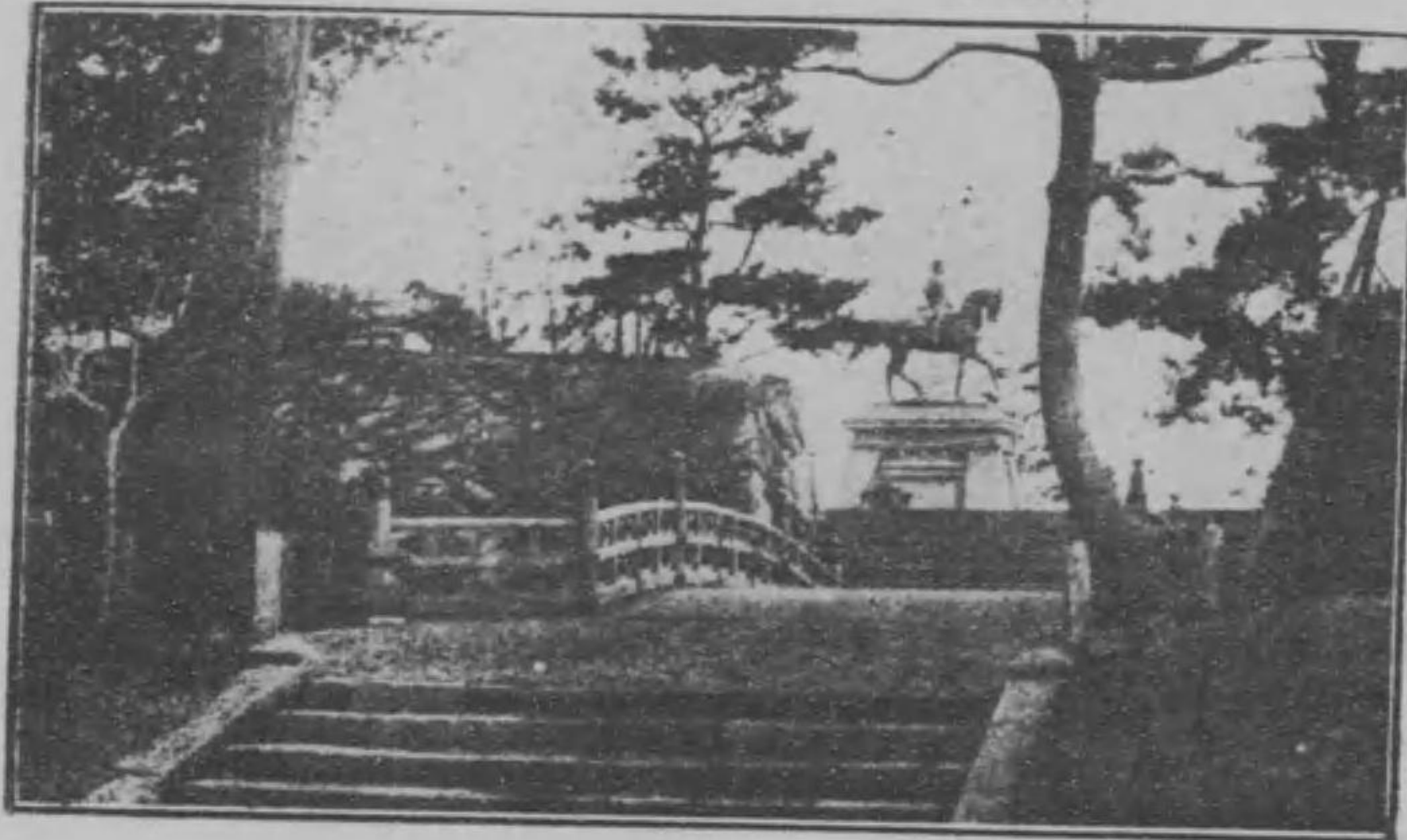
にして北上川を隔て、安倍館を望む黄金競馬場は此の處に在り。  
 東方歩を愛宕山下に轉ずれば南部伯爵家の別邸あり、舊御藥苑の趾にして、苑林の結構市内第一の庭園たるのみならず、屢々皇族の御旅館に充てられ且つ御手植を賜ひし名園なり、背後に聳ゆる愛宕山は眺望を富めるを以て春秋遊覽の適地たり、其中腹に黒田家の忠臣栗山大膳亮の墓あり、更に途を南に轉じて中津川を渡れば上の橋あり、有名なる三橋の一なるは橋に床しき由來あり、青銅の擬寶珠は慶長時代の往古を語る、之れより東して天神山に到り天満宮に賽して山を下れば住吉神社に至る、社殿の結構境域の幽雅神さびて尊し山王山を一瞥して縣社八幡宮に達す、社殿及境内の宏壯なる畜に本市白眉の壯麗なるのみならず他にも多く比肩するものなし、前面に馬場を控へ松杉森々たる背後の丘陵眞に得易からざるの神域なり、傍に官祭招魂社あり、更に南にすれば松尾山の麓に宗龍寺と云へる小庵あり庵を圍繞して二十一軀の石佛あり古奇なる巨像の列座せる狀就て觀るべし、此處より數町にして大慈寺に至るべし、盛岡の生める巨人故宰相原敬閣下の長へに眠れるところなり、寺は先年原敬氏獨力を以て建立し其山門は宰相の葬儀に際し畏くも勅使を迎へたる由緒あり、頃日大慈寺保存會なるものを組織したれば將來淨域を莊嚴し故宰相の偉大を永遠に傳ふるに足るべし、この附近冷水滾々として湧出する處多し、又寺院堂を並べ各々寺寶を藏するを以て就て觀るべし、途を南に轉じ明治橋を渡れば仙北町に達す、橋は八十間の長さを有し遠く眺むれば蜿々として巨龍の走るが如し、橋上又風光に富み左顧右眄其雅趣を擅にすべし、以上本市及近郊名勝の梗概とす。

### 巖手公園

#### (一其) 巖手公園

市の中央にあり、地形高燥なるを以て四望の風光恰も繪を見るが如く、園内樹石泉汀の奇趣に富み遊者をして倦むことを知らざらしむ、本園はもと盛岡城趾を闢きて造れるものにして苔蒸せる石壘水碧き深瀘今尙依然として古城の佛を偲ばしむるものあり。

抑も盛岡城は舊時不來方館又福士館と稱し治曆延久の頃鎮守府將軍清原武則の姪貞頼の城たり、當時南北の兩館に分れ相距る僅かに二町許なりしが今の城跡は其の南館たりしところなり、元弘中工藤光家といへるもの據りて亂を作すに方り南部茂時弟信長に命じ討て之を降し福士入道慶善をして守らしむ、天正十九年九戸政實の亂平ぐるや、南部信直援軍の將淺野長政を送りて此處に至りしが、長政此の城を相して四神相應の地となし更



に築きて治所と爲さんことを勸む、仍て慶長二年を以て工を起し北館を毀ちて池沼を埋めたるも、中津川漲溢の爲一時工事を中止したりしか嗣子利直再び工を起し天和五年に至りて成る、是に於て福岡城より徒り南



(二其) 園 公 手 巖

部氏歴世の治所となせり、寛永十年全城峻工の後は漸次修理を加へ以て明治維新に及べり、一時官有となり櫓閣塙壁を毀ち自然荒敗に委せしが明治二十年再び拂下げて南

部家の所有に歸せり、同三十二年縣社櫻山神社を其東隅に奉還し更に同三十六年時の

縣知事北條元利關ひて公園と爲すの計畫を立て同三十九年に到りて成る。

園内八亭あり拾翠、望嶽、夕照、凌虛、觀月、枕流、双龍、聚芳と稱し皆其配置せる地形風物等に因みて名づけ以て觀望休憩の便に供ふ、又梅櫻桃李の諸林及西洋花卉の花壇ありて四季折々の色香を争ひ、龜ヶ池、鶴ヶ池の水盡くるところ滄々たる飛瀑となり、更に潺々たる細流となる、又巨石に富み園内到るところに出没す、就中最も著名なるを烏帽子石と稱



(三其) 園 公 手 巖

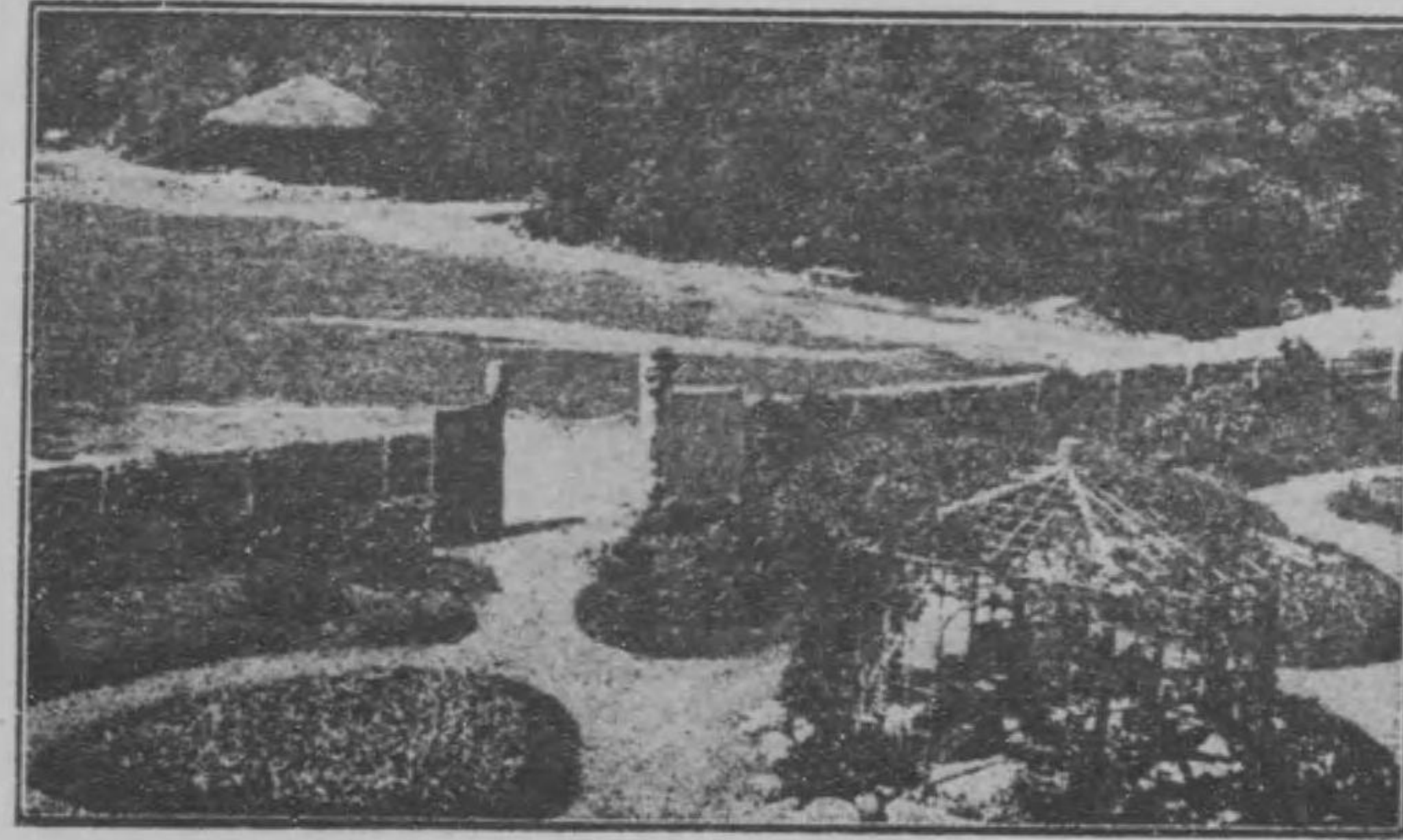
し見るもの其巨姿に驚かざるなし石前に二皇子殿下御手植の松二株あり。

舊二の丸には明治四十一年九月今上陛下未だ東宮にて東北行啓の際御手植を賜りたる松あり、其傍には東宮殿下の御手植の松あり共に枝幹年毎に彌茂り常盤の色いと濃かにして榮行く御代の姿を現せり。

また本丸趾には故南部中尉の銅像あり、軍裝騎馬の勇姿儼然として遙かに滿洲の野を睥睨するか如し、氏は幼時今上陛下の御學友たり、長して士官學校に入り日露の役少尉を以て滿洲に出征し、後中尉に進む。明治三十八年井口嶺に於て遂に名譽の戦死を遂ぐ、此に於て舊藩及有志の士痛悼の餘り其功績を永遠に記念せんが爲め資を募りて建造したるものなり。

武徳殿は二の丸下にあり宏莊なる重層の建築にして各般演武の道場なり。





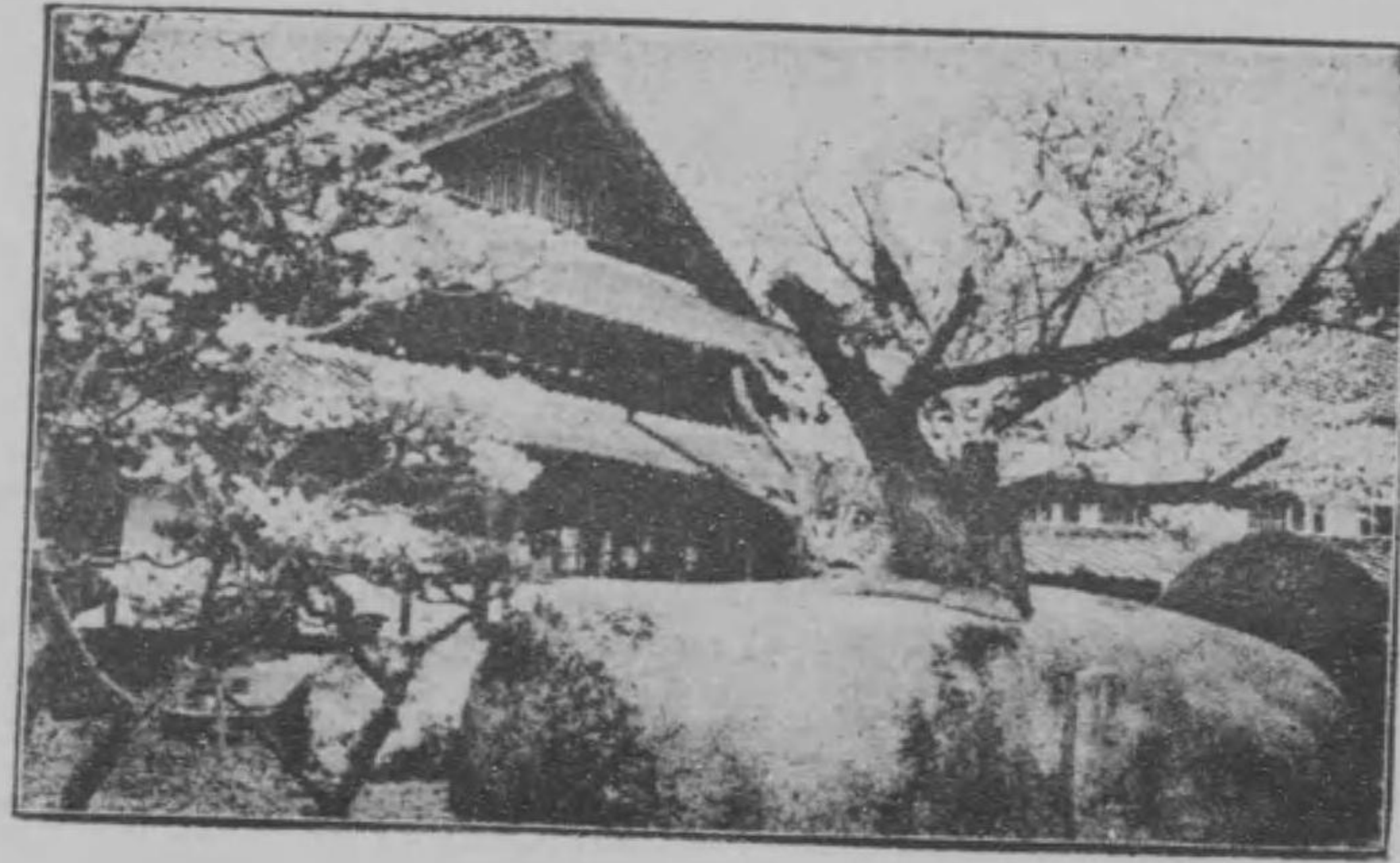
(四其) 園 公 手 巖

御田屋清水は公園の北に在り麗水滾々として石室より湧出す早天と雖も涸渴することなきを以て、市内第一の靈泉たり、往時は藩公の料水にして屋舎を設け庶民の出入を禁せり又傍に鶴數羽を飼養したるを以て今に鶴泉の名を存せり、此の水は諸病に効ありとて今は遠近より來り汲むもの多し。  
又公園の東隅に時鐘樓あり晝夜時辰を報ずるところにして、往時藩命に依り鑄造したる高さ八尺餘口徑四尺餘の巨鐘を揚ぐ、毎時鯨音遠く數里に達す

從四位下 源 重 信

幾春も花の恵の露やこれ

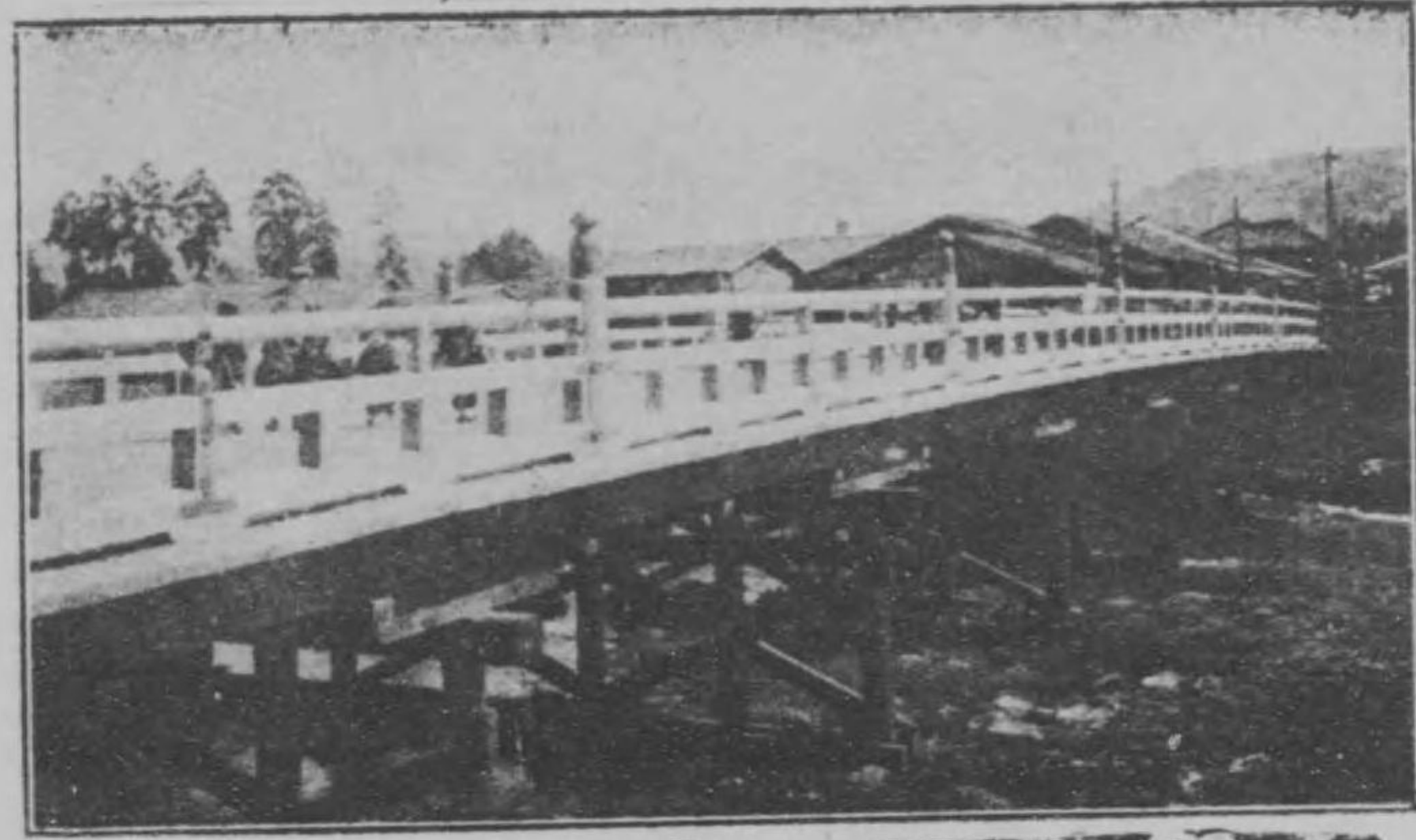
寶の玉の盛る岡山



櫻 割 石

## 石 割 櫻

市内内丸盛岡地方裁判所構内の庭前にありて街路より望むことを得、一に櫻雲石といふ、合抱の老櫻一株花崗石の中央を劈きて挺出す、巖は高さ七八尺長さ二丈巾一丈餘の大磐石にして巖心より生え出でたる櫻樹は次第に太りゆくに隨ひさしもの大盤石も押し開かれて二分したる狀天下無比の奇觀なり、更に春花爛熳の交は磐根と相俟て一層の美觀を呈する様又他に求むべからず。



上の橋

### 中津川の三橋

市の中央を東より西に向て貫流し直ちに北上川に合するを中津川とす、流水清冽にして河底の砂礫も数ふべく兩岸また風景に富み四季折々の雅趣ありて眞に京都の鴨川に髣髴たり、上の橋中の橋、下の橋は皆この川に架せるものにして昔より中津川三橋の稱あり、中の橋は明治四十三年大洪水に遭ひ流失の後鐵橋に架換へたるも上の橋及下の橋の勾欄には擬寶珠を以て飾られ其古雅なる天下稀に見るところのものなり、其由來は南部封内郷村志に

當家十二代六郎政行公京都御在番應安年中の春、北野西山の邊にて鹿の鳴くこと不止、達叡聞、時たらぬ春鹿の鳴く事奇怪也、洛中洛外に觸れて歌伏にせよとの論言にて春鹿と云題を出さる、政行公敷嶋の道を學び玉ひ夢庵翁に傳授なり一首

を詠し獻し玉ふ。

春かすみ秋立つきりにまかねば思ひ忘れて鹿や鳴くらむ

此の歌叡覽に供へられしに叡感不斜殊に鹿の鳴音も止となり即ち宣旨によつて政行公參内、邊土の武士歌道に心を寄せ名歌を詠せしこと神妙の旨、勅詔にて從五位下に叙し遠江守に任し玉ひ且つ松風の硯拜領、今に御寶藏にあり、又都にもまさる歌人なれば、何ぞ帝都の趣を在所へ移すべき旨宣旨にて加茂川の橋の擬寶珠を敕許也、在勤濟御下有て、三戸城府熊原川の橋に擬寶珠を被爲附、欄干に金銀をちりばめて、程なく成就せしかば隣國近郷より老弱男女市を爲し見る人黄金橋と唱えしと也、かくて二十七代利直公慶長年中盛岡城を築き給ふ節右のわけにて熊原川の擬寶珠に足し加へて鑄直し、三橋御造立也擬寶珠には左の銘あり古色蒼然として時鐘樓の巨鐘と共に南部鑄金史上特筆すべき遺物なり

慶長十四巳酉年十月吉日

上の橋

源朝臣利直

慶長十六辛亥年八月吉日

中の橋

源朝臣利直

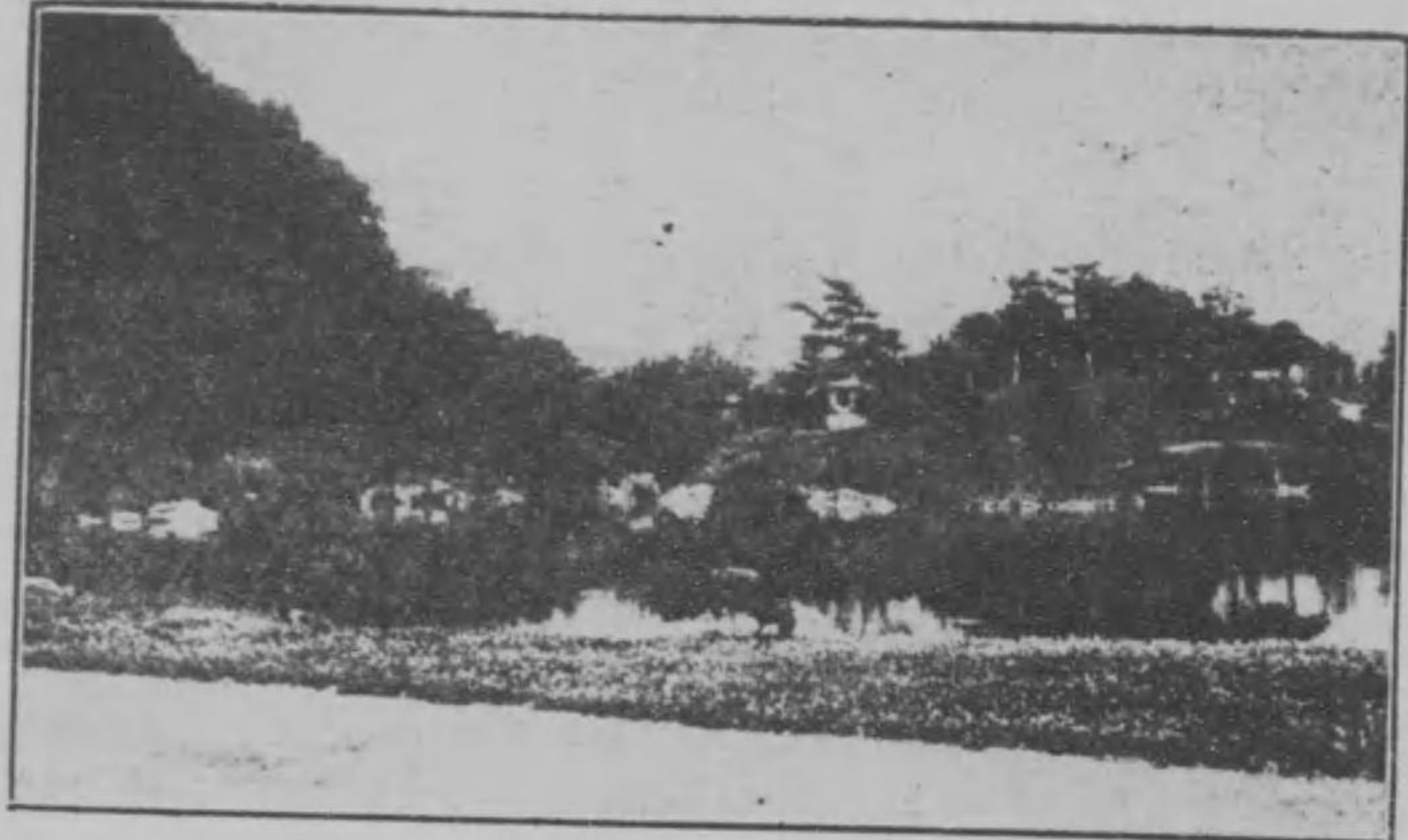
因に中の橋の擬寶珠は今下の橋に轉用せらる



櫻山神社

巖手公園の東隅にあり、南部家の祖三郎光行公及中興の祖信直公利直公並に利敬公の四霊を合祀し毎年五月二十五六の兩日を以て例祭を執行す、同社は二十三代利視公の時盛岡城内に建立し淡路丸神社と號して奉祀せしが後今の名に改めたり、明治維新の際市外妙泉寺山に徙し同八年更に北山聖壽寺の趾に遷座し同十四年縣社に列せらる同三十二年地を此處に卜し社殿を改築して翌年十月奉遷せり今は本殿、幣殿、拜殿、神饌所、神門、瑞垣、社務所、神樂殿、祭器庫等櫛比し、又表口にある二基の石華表は見る者をして其の大到驚かしむ、其他献燈、狛犬、漱盟等多數に配置し賽者をして莊嚴の感を深からしむ。

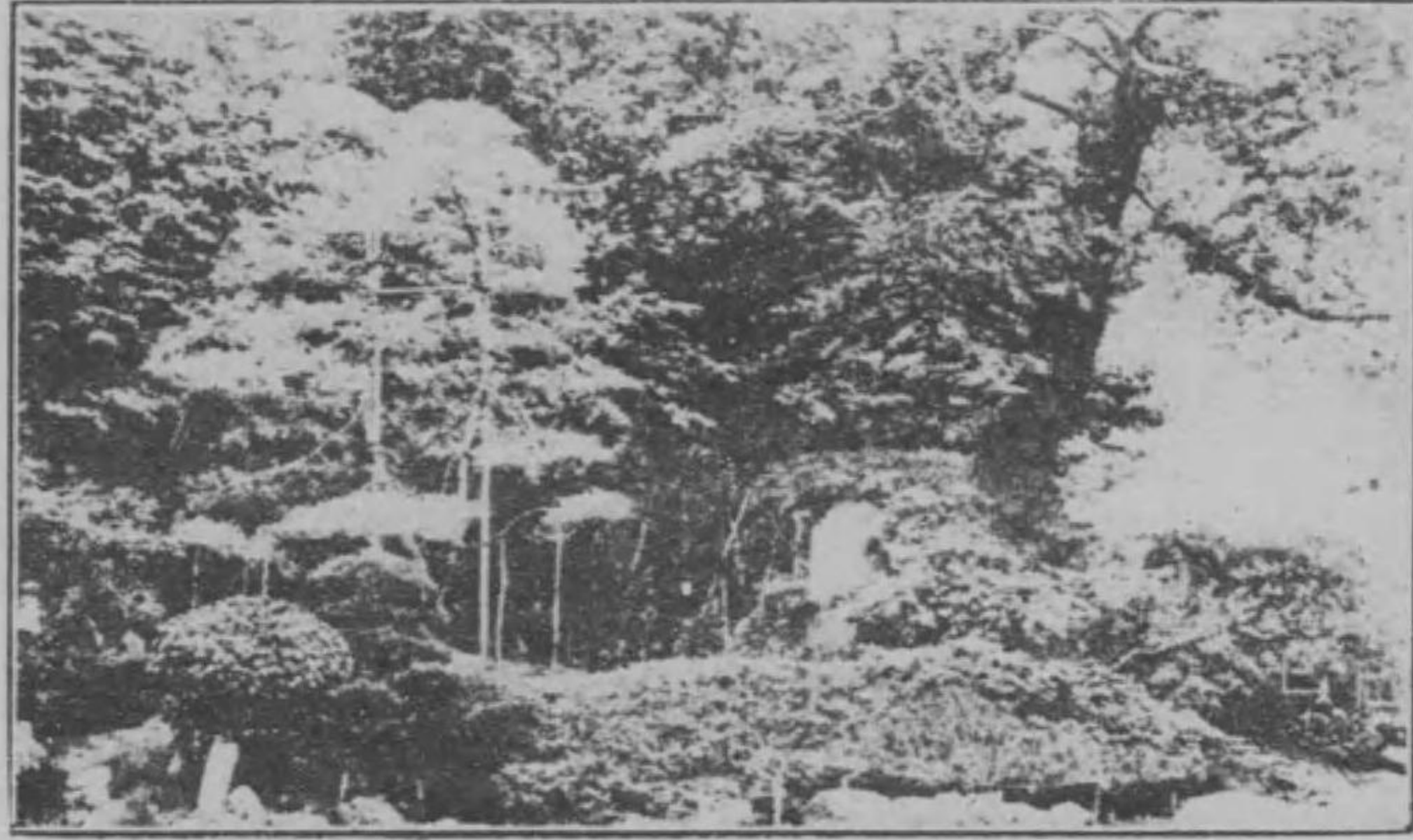
### 縣社櫻山神社



御薬苑

### 舊御薬苑

下小路に在り今の南部伯爵別邸なり、同苑は享保の昔藩主行信公荒蕪の地を拓きて藥草を植ゑたる處にして、後正徳年間藩主利幹公の時家屋を建て庭園を造りて別邸となし以て君臣借樂の場所させり、初め公之れを造るに當り江戸及京阪の名工を聘し巨資を投じて近江八景に擬せる庭を造りしが廢藩置縣の際全部取毀されて田圃と化せり。明治三十九年南部家に於て再び邸宅の造營を議し同四十年工を起し翌年九月に至りて竣工を告げ昔時に勝る壯大の邸宅となれり、苑林又舊觀に復するに至る、竣成の後間も無く東宮殿下(今上陛下)の東巡に際し當市御駐駕六日間の御旅館に充てられたり、爾來各皇族殿下御巡遊に際し御旅館たるの光榮を荷へり。  
地は背後に愛宕山を負ひ地域廣潤にして築山には各宮殿下御手植の松綠濃かに、泉池には短艇を浮べて競漕に供せり、又遠く姫神の秀峰を望み幽遠眞に仙境の想あらしむ。



賜松園

## 賜松園 (菊池邸)

餌差小路菊池第三邸内の庭園なり、第三の祖父金吾の代明治九年及同十四年明治天皇陛下東北御巡幸の際兩度とも當邸を以て行在所に充てらる、當時園内に古松あり地上一二尺のところより大枝四方に分延し小朶其の上に擴かりて天を覆ひ風姿いと珍らしかりければ聖上叡覽ありて御感斜ならず、殊に十四年八月御駐蹕の節は炎暑甚だしく玉座を樹下に遷して暑氣を避けさせ給ひけるが其折名を見馴松と賜はり西四辻侍従に和歌を命し給ふ其歌に曰く

改めぬ色にも千代をさゝげたて

君が見なれの宿の松が枝

又救命に依り川田一等編輯官記文を選し金井大書記官之を書し杉宮内大輔見馴松の三字を高札に書して金吾に賜りぬ、金吾感

喜身に徹して之を不朽に傳えんと相州根府川石を求め川田編輯官の撰文及西四辻侍従の和歌を鐫して樹側に建てたり。

然るに明治十七年十一月四日當市未曾有の大火ありて市の大半を燒燼せり、見馴の松も又惜むべし菊池邸の類焼と共に烏有に歸せり金吾時に年七十三家財惜しむに足らず見馴の松を救ふの術なきかと衆力を合せ消防に盡せしも其甲斐なく遂に災に罹る、此事天聽に達し禁苑の稚松を賜はる、金吾大に悦び上京して之れを拜戴し見馴の松の趾に植ゑて更に庭を賜松園と名げたり。

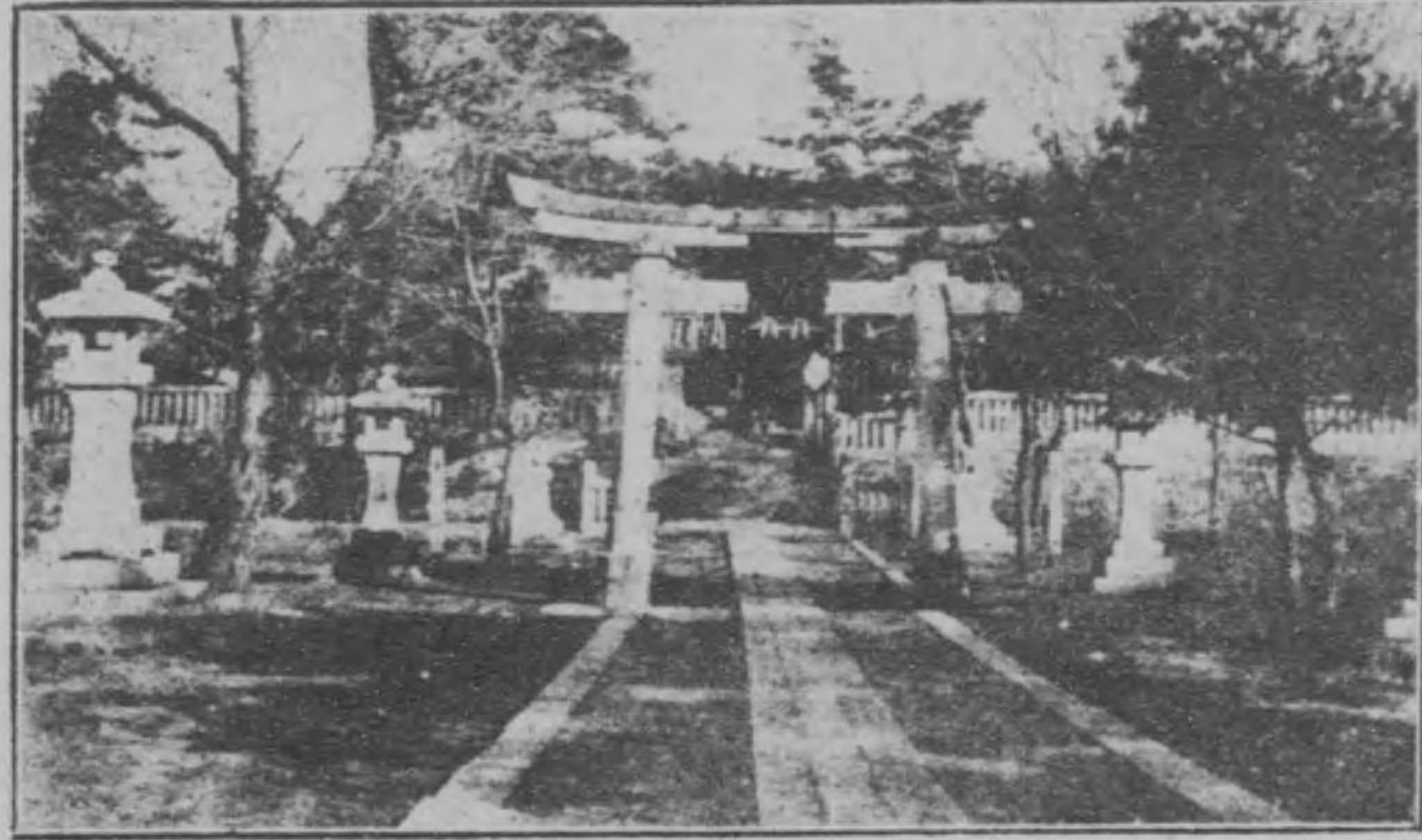
賜松園の碑文も亦川田剛氏の選ぶところなり。

其後山縣中將(後の公爵有明)北海道巡視の途次同邸に立寄り一首の歌を詠じぬ

更くるをも知らで御幸の物かたり

月を見なれの松の下かけ

明治四十一年十月東宮殿下(今上陛下)當市御駐駕の際同邸に成らせられ行在所跡及賜松園を臺覽遊ばされたり。

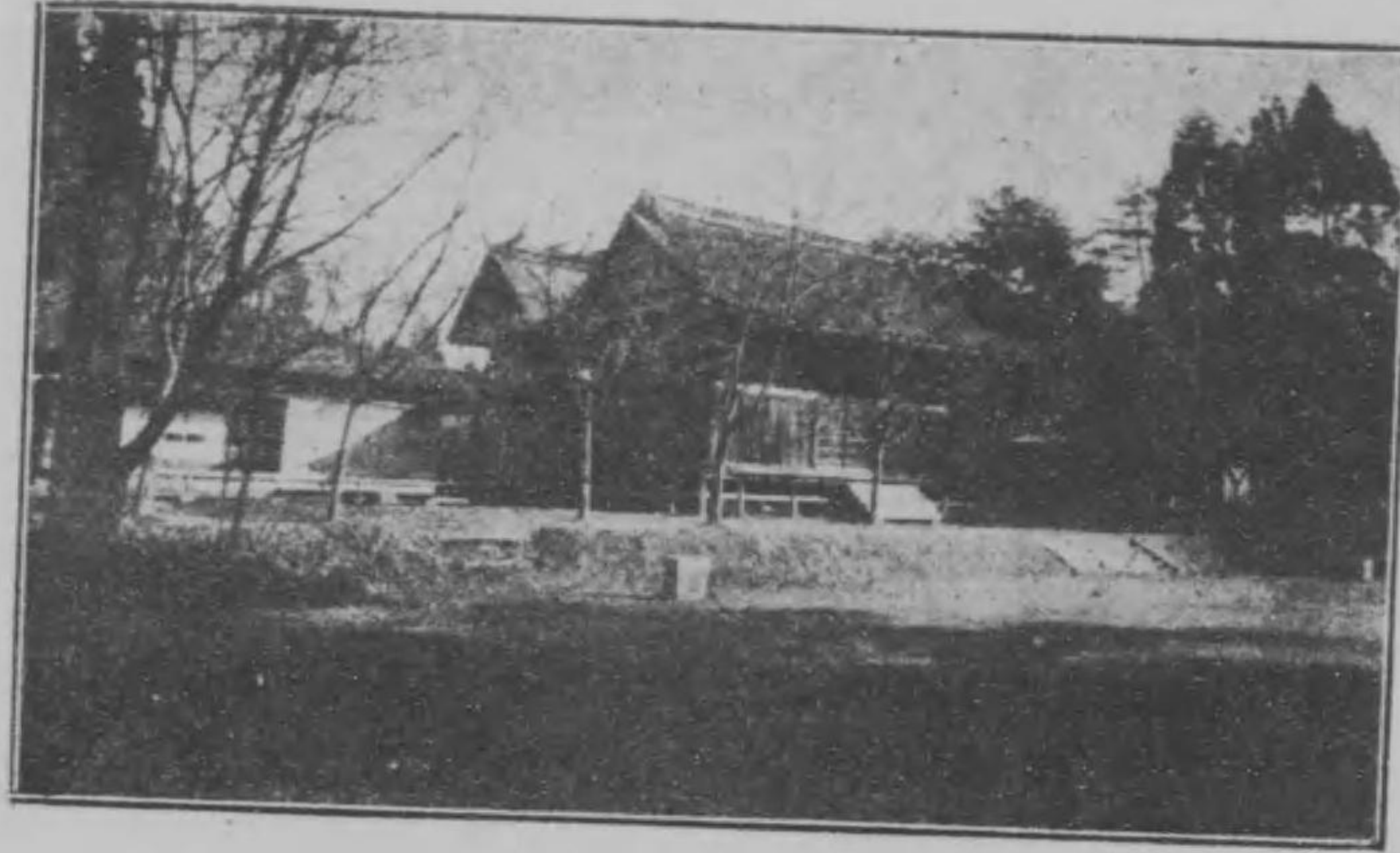


縣社八幡宮

## 縣社八幡宮

市の東方八幡山に在り譽田別の命を祭る、康平五年鎮守府將軍源頼義東征凱陣の途次勸請せりとこみなりと、境内廣壯にして前に數百間の馬場を控へ後に丘陵を負ひ松杉鬱茂して櫻楓其間に點綴し地方稀に見るの神域なり社殿また宏壯にして本殿、神門、瑞垣、幣殿、拜殿、神饌所、四脚門、神樂殿、神馬堂、社務所等具備し又丘上には笠森稻荷神社を祭る其他石華表、燈臺、狛犬等多數並立せり。

本社は古來藩主を初め庶民の崇敬深く祭典の際賽者雜踏を極む例祭は毎年九月十四日より三日間に亘り神輿の渡御あり各種行粧古式に依り威儀を正して之れに隨從し又奉納山車の挽出等ありて遠近より參拜するもの夥しく縣下隨一の盛典なり



官祭招魂社

## 官祭招魂社

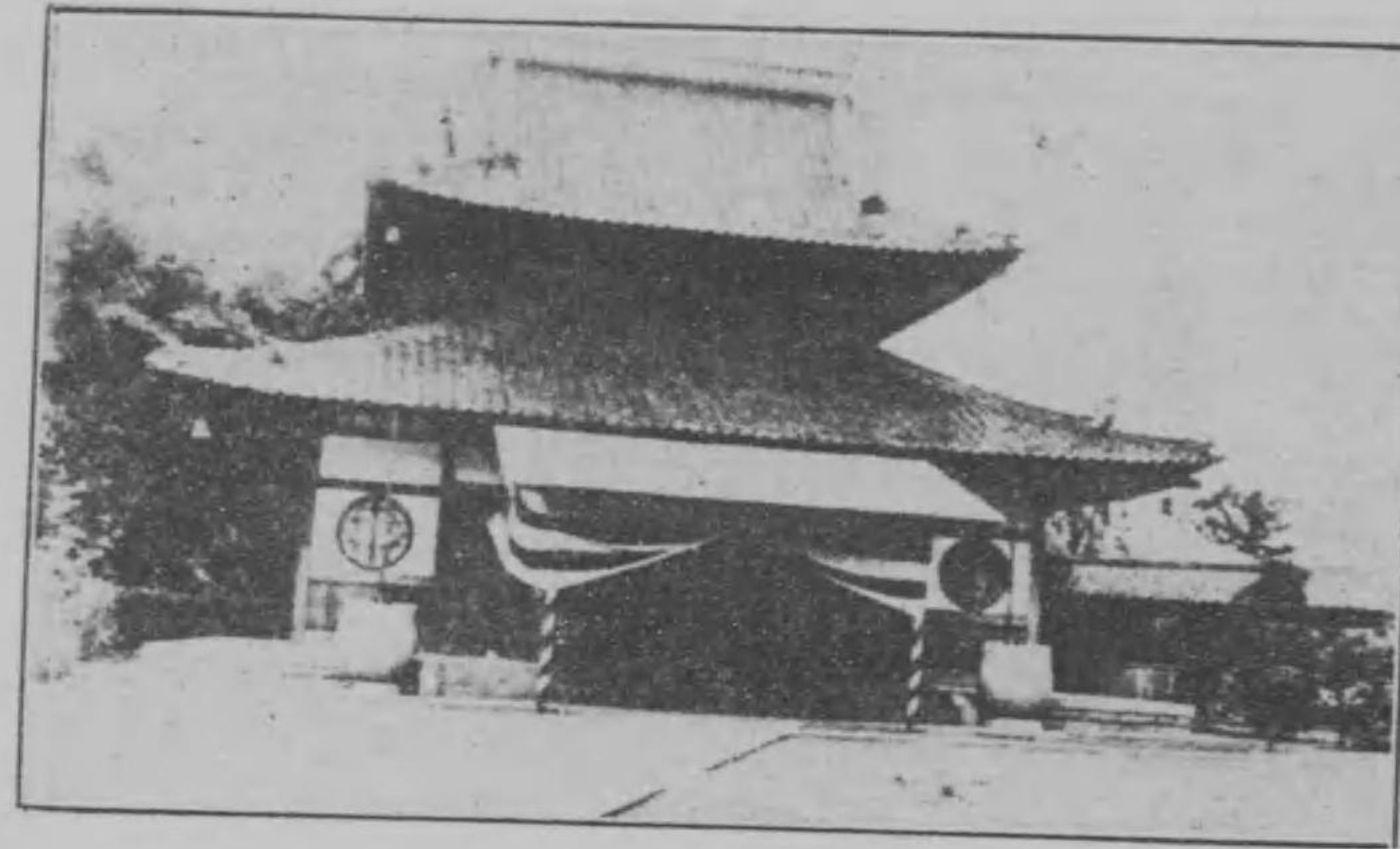
八幡宮の北隣に在り成辰戰爭以來、西南、日清、日露、歐洲戰役等に戰歿したる勇士の靈を祭る、例祭は毎年四月末日にして騎工兵各聯隊及在郷軍人各學校等隊伍を整えて參拜するの狀戰死者の靈をして遺憾なからしむるものあり、又遺族者の參拜に對しては種々の便宜と慰安の途を與ふるを以て廣き境内も參拜者を以て埋む、境内二碑あり一は南部藩中勤王の士贈從五位目時隆之進同中嶋源藏二氏の爲めに、一は西南役に戰歿したる勇士の爲めに其功績を表彰せるものなり。



垢離取場の石佛

八幡宮の南松尾山の麓に在り昔時八幡宮の神事に預る人々の水垢離を採りたる趾にして今は宗龍寺と云へる小庵あり、境内に各丈餘の五智如來及十六羅漢の石像二十一軀ありて庵を圍繞す風貌頗る古雅なるのみならず斯の如き多數の巨像を一所に觀らるゝは他に得べからざる奇跡なり。

東北方に隣りて高燥なる一丘陵あり松尾山と呼ぶ頂に松尾神社あり、大山昨尊、市杵嶋姫尊を祀り、毎年六月十三日例祭を執行す、四圍幽栖なり



大慈寺

### 大慈寺

市内東中野に在り、黄檗宗にして徳眞禪師の開創にかゝる、今の伽藍は明治十七年炎上の後暫らく假堂なりしが、大正七年大檀越原敬氏獨力を以て再建を企て翌八年に至りて竣成を告げ同八月落慶式を擧ぐ本堂は石疊の上に重層瓦葺の佛殿造りにして禪家建築の範を示せり、本尊は如意輪觀世音菩薩にして右の檀上には阿彌陀如來の立像厨子内に安置す前内閣書記官長高橋光威氏の寄進にして鎌倉時代に於ける傑作たり、又左方には自覺大師の作と傳ふる高寺觀世音像あり同じく厨子内に安置せらる寺寶には開山の念持佛を初め各高僧の書幅故原敬氏の筆跡其他佛具等多數あり、

山門は原敬氏の葬儀に際し勅使参向の光榮を有せるを以て勅使門として永久保存の議あり、其他庫裡等完備せり。境内に原敬氏の墓あり、大正十年十一月四日午後七時東京驛に於て兇刃に斃れたるは世の周知るところなり、法名を大慈寺殿逸山仁敬大居士と諡す、埋葬以來氏の徳を追慕する名士の展墓頻繁なるのみならず、一般の參詣者常に絶えずして墓邊常に香煙棚引き献花を以て埋まる。

大正相原敬氏の葬儀と墓園を物語る



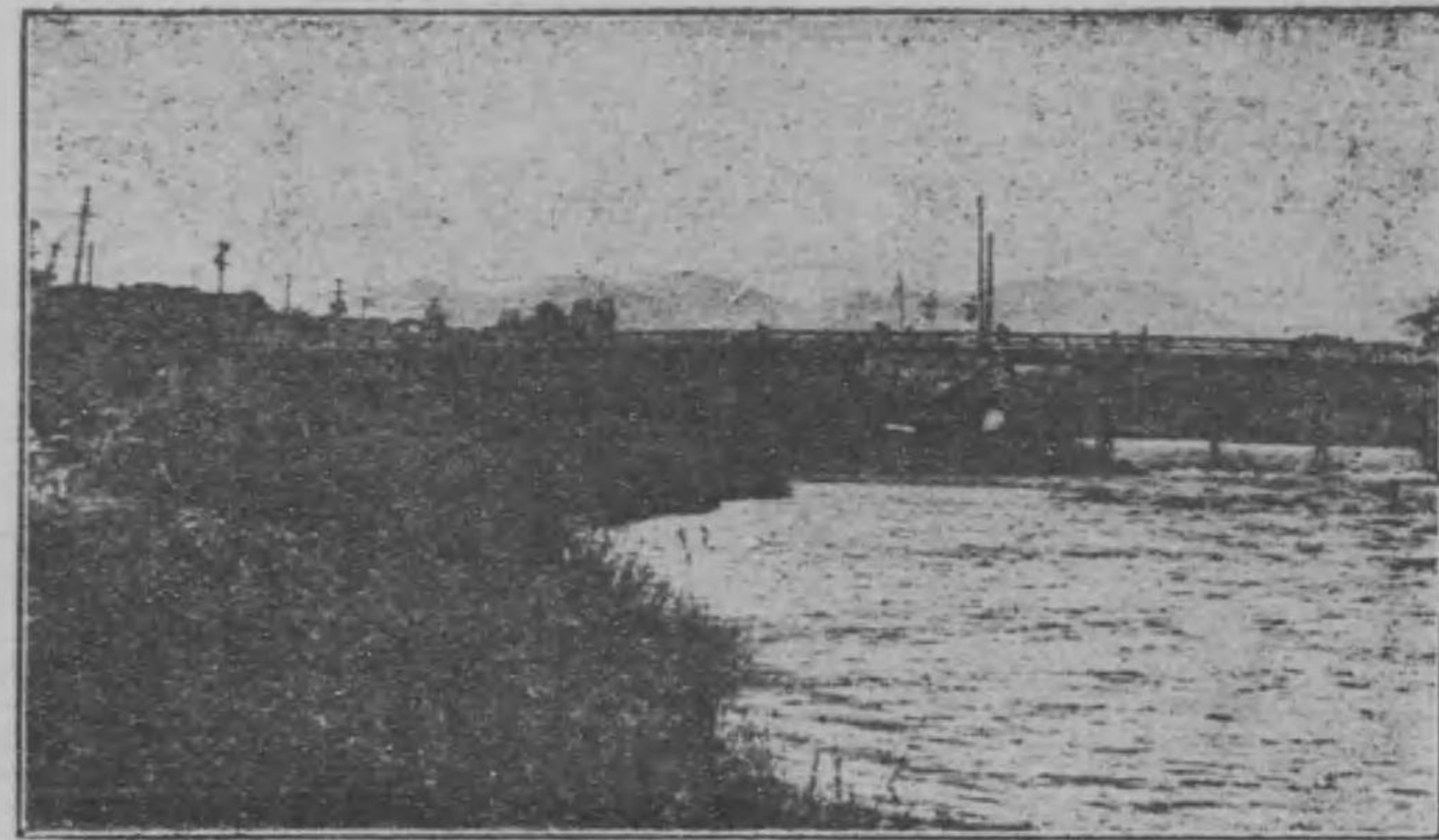
馬 市 場

南部領内には古來良馬を産出し南部馬と稱して其名聲全國に喧傳せられ昔は幕府に對する恒例献上の物たり、故に舊藩時代より二歳驪駒の制度ありて、維新後に至るも其慣例を襲用し以て今日に至れり、市場は元馬町の街路に於て行ひたりしも年々行通の頻繁に伴ひ狹隘を告ぐるを以て今は志家松尾前に廣潤なる敷地を選び馬檢場、厩舎、事務所等を新築して移轉せり、故に此邊を俗に新馬町と呼べり、現今は本縣管内に十三組合ありて九月より十一月に及び順次市場を開催して競賣に附するもの六千頭以上とす、就中盛岡市に於ける驪市は本邦有数の大市場にして出陳頭數千餘に達し開市の際は壯駒の集合に連日莊觀を呈し且つ非常なる雜踏を極む。

*全國一の良馬生産地*

又隨時參謀本部及各師團各府縣等より購買官の來場ありて買收せらるゝもの毎年數千頭に達し各種の用途に供せられて良好なる成績を示し全國唯市の馬市場として眞に誇るに足れり。

馬 市 場

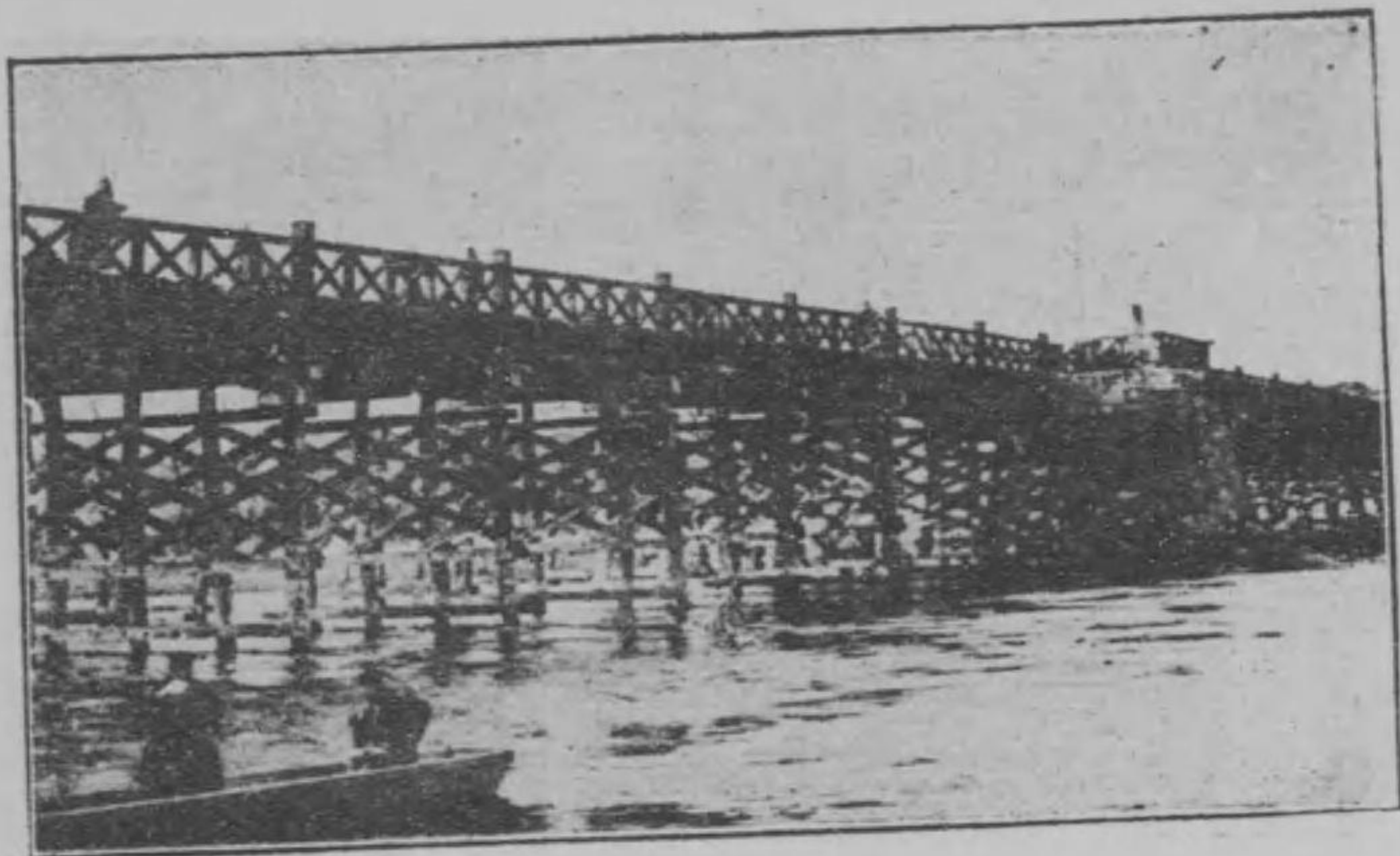


夕 顔 瀬 橋

北上川の三橋

北上川は市の西南を貫流する大河にして水源は岩手郡御堂村に發し宮城縣石の巻に至り海に注ぐ本市内には三大橋を架し以て行通に便せり。

夕顔瀬橋は市の北端茅町より厨川に達する要衝に當り長さ五十三間餘の長橋にして中央橋臺に二基の石燈籠を建て、岩手山の神靈を祭る、橋名の起源は康平年間源頼義其子義家と共に安倍貞任追討の軍を率ゐて此處に迫るや貞任力竭きて遂に苦策を弄し夕貞を頭首として藁人形を作り之れに甲冑を纏はしめて擬勢を張りたるより出でたる名なりと橋上よりは近く厨川柵趾を望み遙かに岩手山の秀峰に對す、風景頗る佳なり。



明 治 橋

開運橋は盛岡停車場より市内に達する要橋にして近年巍然たる鐵橋に架替へ其結構壯麗なる本市の玄關として耻ぢざる美觀なり、北上三橋の中央に位し晝夜車馬絡驛として絶ゆることなし。明治橋は市の南方川原町より仙北町に通ずる長さ八十間の長橋にして國道の要路に架す、昔は船橋を通じて往來に便せしも河水汎濫せる毎に撤去するを以て、折々交通杜絶の已むなき有様なりしかば明治六年時の縣令嶋維精氏痛く之れを歎き大に土木を起し翌七年五月を以て竣工せり橋は夕良瀬の如く中間に堅固なる橋臺ありて其上に長三洲の筆明治橋の三大字を刻したる石碑を建つ、橋上眺望に富み東方に鱸山の明月を望みたる景趣は文墨の士をして推賞措かさらしむ。

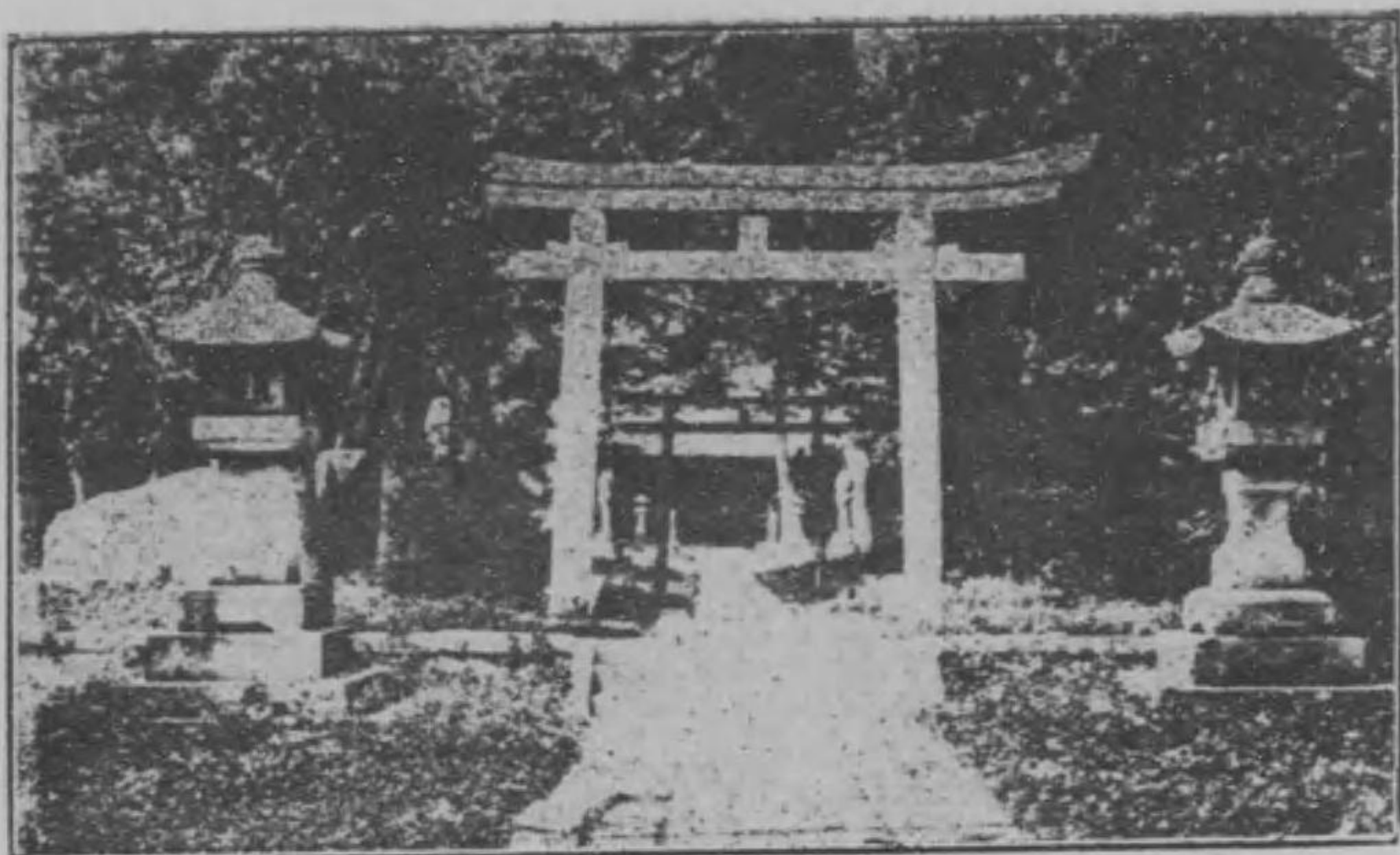


住 吉 神 社

## 住 吉 神 社

市外新庄に鎮座す昔は社殿、隨神門、太鼓橋等備はり、輪奐の美を極めしも、維新後漸次荒廢に歸し今尙僅かに残れる本殿に往昔の倂を偲ばしむ、建築の様式は切妻造にして屋上に千木鯉木を置き向拜に唐破風を附し、また軒廻に支輪を附け腰を拱斗組とせる總檣造の社殿にして番匠の模範たり、燈道の左右に並列せる石燈籠は形ち優雅にして是又石匠が範型とするに足るべし又境内に槻の巨木あり枝幹鬱茂して殆んど全境を覆ふが如し





天 滿 宮

天 滿 宮

住吉神社の東方丘上にあり、相距る數町、贈太政大臣菅原道眞公の靈を祭る、境内は一劃の丘陵なるを以て頗る眺望に富み前面は田市を隔て、市内を一眸の下に集め北に岩手姫神の秀嶺を仰ぎ西に南昌山の連峰に對す、北上及雫石の流域は銀蛇の如く其の下を奔る。更に視線を後方に廻らせば岩山の優姿指顧の間

境内には錢石、相生の松、筆塚、俳人素卿の碑古池の碑等あり例祭は毎年六月二十五日にして參拜者踵を接す。

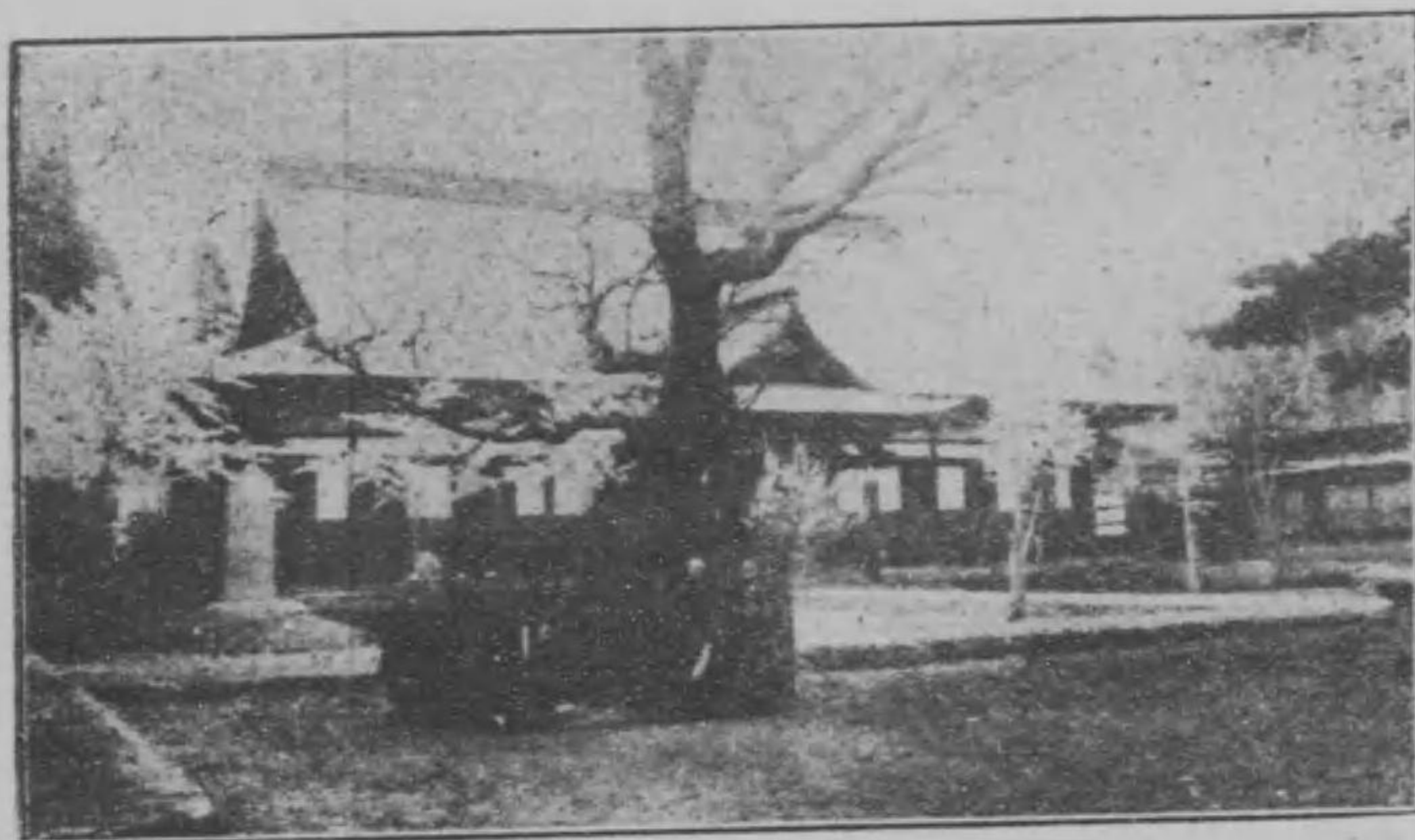
愛宕山と栗山大膳の墓



市外米内村にあり昔は法輪院廣福寺の跡にして山頂に愛宕神社を祭り市民遊覽の地として雅客を絶たざりし

地に葬る。碑は高さ一丈餘文は無方長老の遷にして上に守白堂と刻せり。

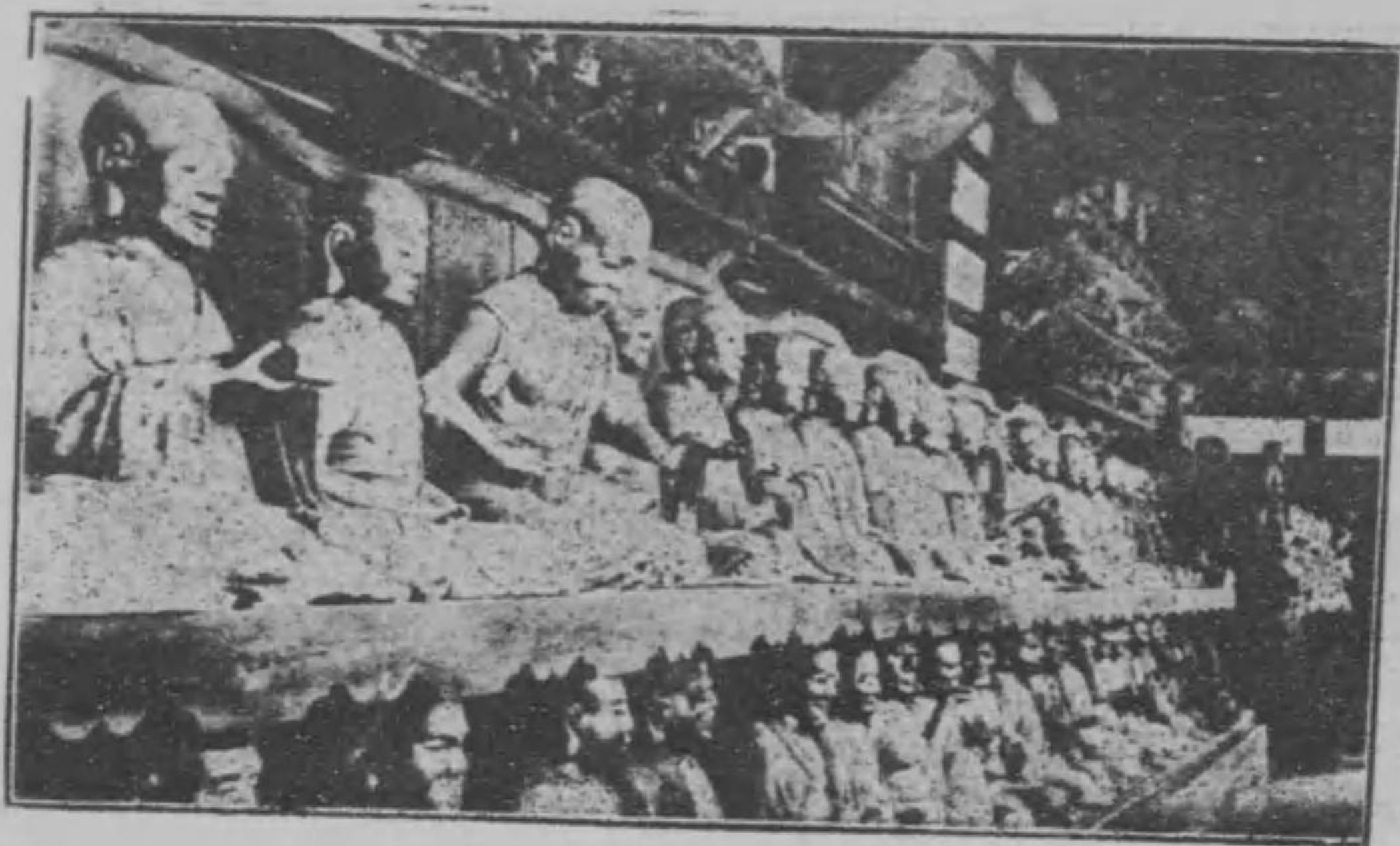
も維新後廢頽して今は殘礎に往時の面影を止むるのみ、然れども山容今尙依然として栗眺望に富むの地なるを以て春秋遊覽するも山の常に絶えず今は南部家の所有に屬し麓に大南部鑄金研究所あり地方特産の鐵瓶を製造膳する外一般鑄金の研究に資せり栗山大膳の墓は同山の中腹にあり氏は黒田家の忠臣と慕して演劇及歴史小説等にて赤穂の大石良雄と並び稱せらるゝの人なり、南部家に預けられてより二十年にして承應元年病歿し此



報 恩 寺

市外北山にあり鳩峰山と號し曹洞宗なり、貞治年間通山長徹和尚開山し南部十三代大膳太夫守行公（禪高法師と稱す）の開基にかゝる藩政の時は二十九ヶの末寺を有し領内二百八ヶ寺の總録たり又盛岡五ヶ寺の一として寺祿二百石を領し、修道の雲衲常に寮内に群集せりと、維新後凡ての待遇を解かれしも寺坊は依然として今尙舊時のまゝに存し境内は老杉森々として晝尙暗く眞に禪境の趣あり、本堂は十五間四面の大伽藍にして大庫裡之れに接続す。

本尊は釋迦如來の座像にして聖德太子の作と傳え左右に普賢文珠の兩士待せり内陣の莊嚴凡て具足し地方稀に見るの禪刹なり羅漢堂は庫裡と相對して本堂の左側にあり、廻廊を以て之れに通ず本尊は丈六座像の盧舍那佛にして其頭首は往昔大和國橋寺



羅 漢 堂

にありしものにして弘法大師の作と傳へらる。左右に侍せる善哉童子及八歳龍女の像は朝鮮より渡來せるものなりと五百阿羅漢の群像は左右の境上に配列せらる享保年間京都大佛師駒野丹下定英父子の力作にして四ヶ年の歳月を費して成れりと云ふ。其の容姿を異にせる彫刻の妙技に至りては本邦羅漢像中眞に得難き傑作たり堂内天井の畫龍は狩野林泉の筆にして當に風雲捲き起らんとするの憾あり、寺寶には後柏原院の小倉山莊の色紙、弘法大師の筆俱利迦羅不動尊畫幅、禪家高僧の筆跡佛像什器等所藏頗る多し。

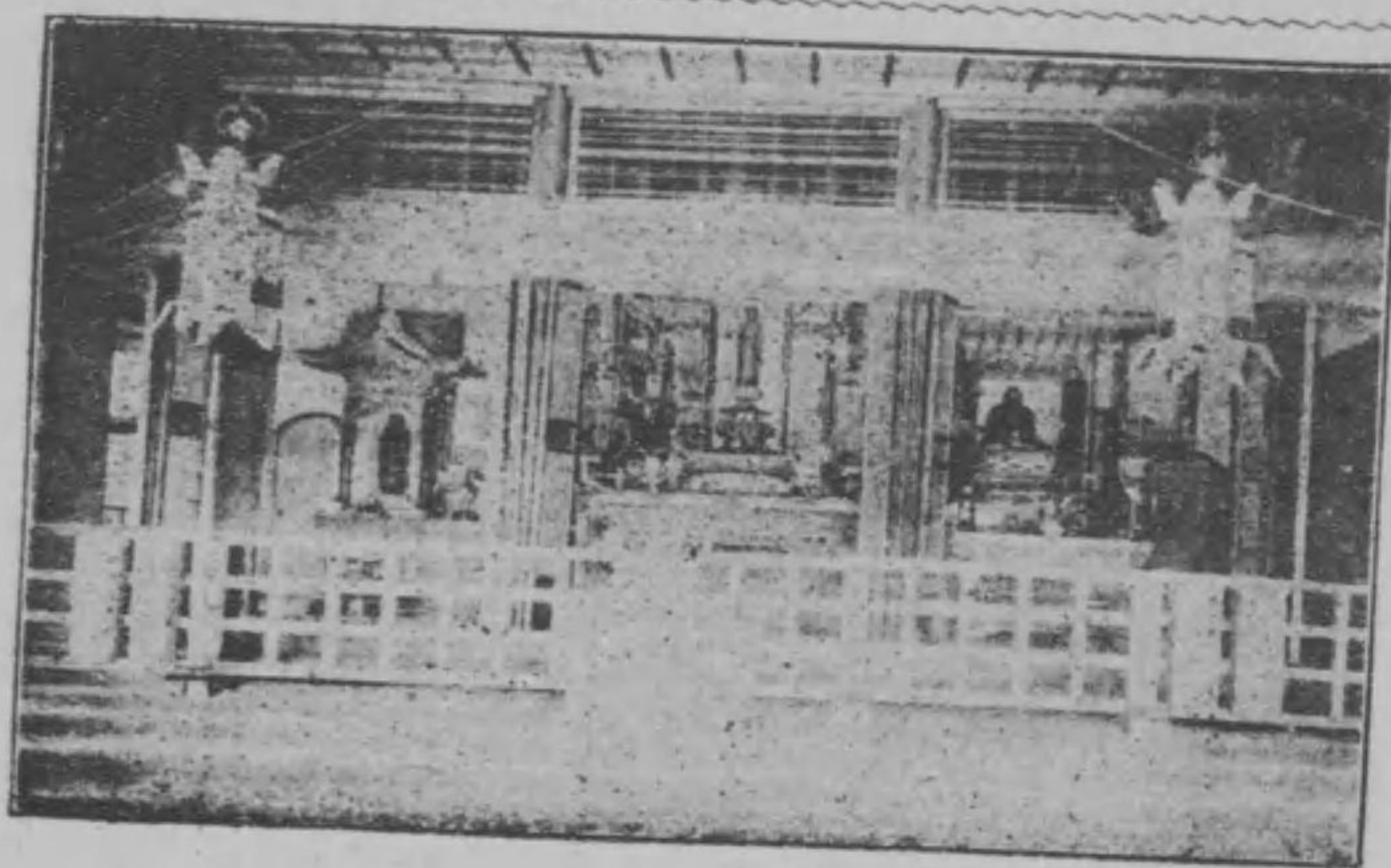
境内には本堂の後庭に虎舞の楓樹あり老幹磊塊の狀眞に奇を極む、羅漢堂の後には鏡か池の趾あり往昔安倍貞任最後の容姿を映せしところと傳ふ又寺後の山頂に光明塔あり天保年間の凶作に餓死せる無縁者千四百餘人を埋葬せるところにして俗に千人供養塔といえり。



盛岡枝垂櫻

共に米内村三ツ割龍谷寺の境内にあり片葉の蘆は其葉一方に偏して双生するものなし、昔行脚の僧あり觀世音の尊像を負ひて此のあたりに宿りしに一夜賊忍び入り彼を斬りて、逃走せり僧驚き醒むれば身に微傷だになし、只觀音の像見えざるを以て戸外に出で、索むれば像は右手を切斷せられて河中にあり流れに從ひて蘆に觸るれば其葉悉く片葉となり以來双生の蘆を生ぜざるに至れりと、櫻川觀世音堂は之の靈像を祭れるものなり。盛岡枝垂櫻は觀世音堂と相對して本堂の右にあり花は他に比類なき特種のものなるを以て先年植物學の泰斗三好博士之れに盛岡枝垂と命名せり、陽春満開の頃花雲熾き眞に美觀を極む。

### 片葉の蘆と盛岡枝垂櫻



本誓寺

### 本誓寺の黒佛

米内村三ツ割に在り眞宗大谷派に屬し開祖親鸞上人の高弟是信房の開基にかゝる、祖師嘗て常陸國稻田に在りしとき東奥勸化の命を受け、祖師自刻の像及名體不離の本尊を授かり之れを奉じて奥州紫波郡彦部村に至り一寺を創して石森山本誓寺と號し専ら開宗に勤めしが文永三年十月八十六歳の高齡を以て遂に此の地に於て示寂せり、後數度の火災にかゝり寛永十二年今の地に徙る昔は地方屈指の巨刹なりしも先年火災にかゝり烏有に歸せり、然れども幸にして寺寶は災禍を免がれて現存せるもの多し、就中祖師像は俗に黒佛様と稱し、祖師上人の直作（日本三體の一）にして文永中彦部にありしとき池魚の災あり像もまた寺と共に烏有に歸せしものと思ひしに不思議にも蓮池の中に在るを發見せり故を以て蓮葉の痕蹟今尙頭上に存す、爾來蓮冠の

御眞影と稱して愈々名高く、遠國より遙々來り賽するもの今に多し、本堂は今再建中にして竣工の後は舊觀に復すべく、境内には輪藏、鐘樓及末寺二を有す。寺寶の重なるものは惠心僧都作本尊阿彌陀如來、祖師上人自刻自像（前記黒佛）同上筆名體不離の尊像及光明本、覺如上人筆光明攝取の尊像、古作聖德太子像、安阿彌作觀世音像等あり其他繁ければ之を略す、孟蘭盆會には、之等を寺内に陳列して一般の觀覽に供せり。

北山晴嵐

衛門曳杖出 秋色拂雲根、 况副晴嵐趣 北方織錦看

北山の嵐も晴れて此頃は

花のさかりにかゝる白雪

三ツ石

東顯寺の後にあり本誓寺に隣す、老杉亭々として晝猶暗きところ三個の巨巖屹然として立つ、宛然猛虎の嘯くが如し、丘上に三ツ石神社あり石の靈を祭る此の地の字名を三ツ割といふは蓋しこの石より出づるものなり其の由來は東顯寺三ツ石記に

往昔羅刹鬼屢々來りて里人を惱ます、里人三ツ石の神に祈ること三晝夜三ツ石の神一夜、其鬼を生擒す、鬼懼れて頓首し泣きて憐みを乞ふ、神搏を解き、再び來り犯さざるの證として其巖石に手を押ししむ。爾後鬼復た來らず、依て此の邑を不來方と云ひ、其の手を巖に押ししたる事に因り、郡を岩手と名げ其郷を三ツ割と稱したり」云々

前掲巖手公園の烏帽子石及裁判所構内の櫻雲石と相俟て奇巖の一たり。



三ツ石



願教寺

願教寺

米内村北山にあり真宗本願寺派の末寺にして現今の堂宇は安政年間藩主南部利濟公の建立にかゝり、屋宇宏壯にして、内部輪喚の美なること東奥に稀なる建造物たり、本堂の外山門、鐘樓、經藏、庫裡等備はり、又境内に末寺二を有せり、寺寶には佛像、佛畫、書幅、名器等多數所藏せり。然れども創建新しきを以て史上特記すべきことに乏しきも各種の會を設けて布教傳道に盡せるを以て宗風益々宣揚せり。

此附近一帯に寺院多く以上列記したる外法華寺、源勝寺、教淨寺、東禪寺、聖壽寺等相並び報恩寺に隣りて正傳恩流の二禪刹あり、又龍谷寺附近に光臺寺、徳玄寺、吉祥寺、清養院の各宗大小寺院を接し所藏の寺寶觀るべきものあり

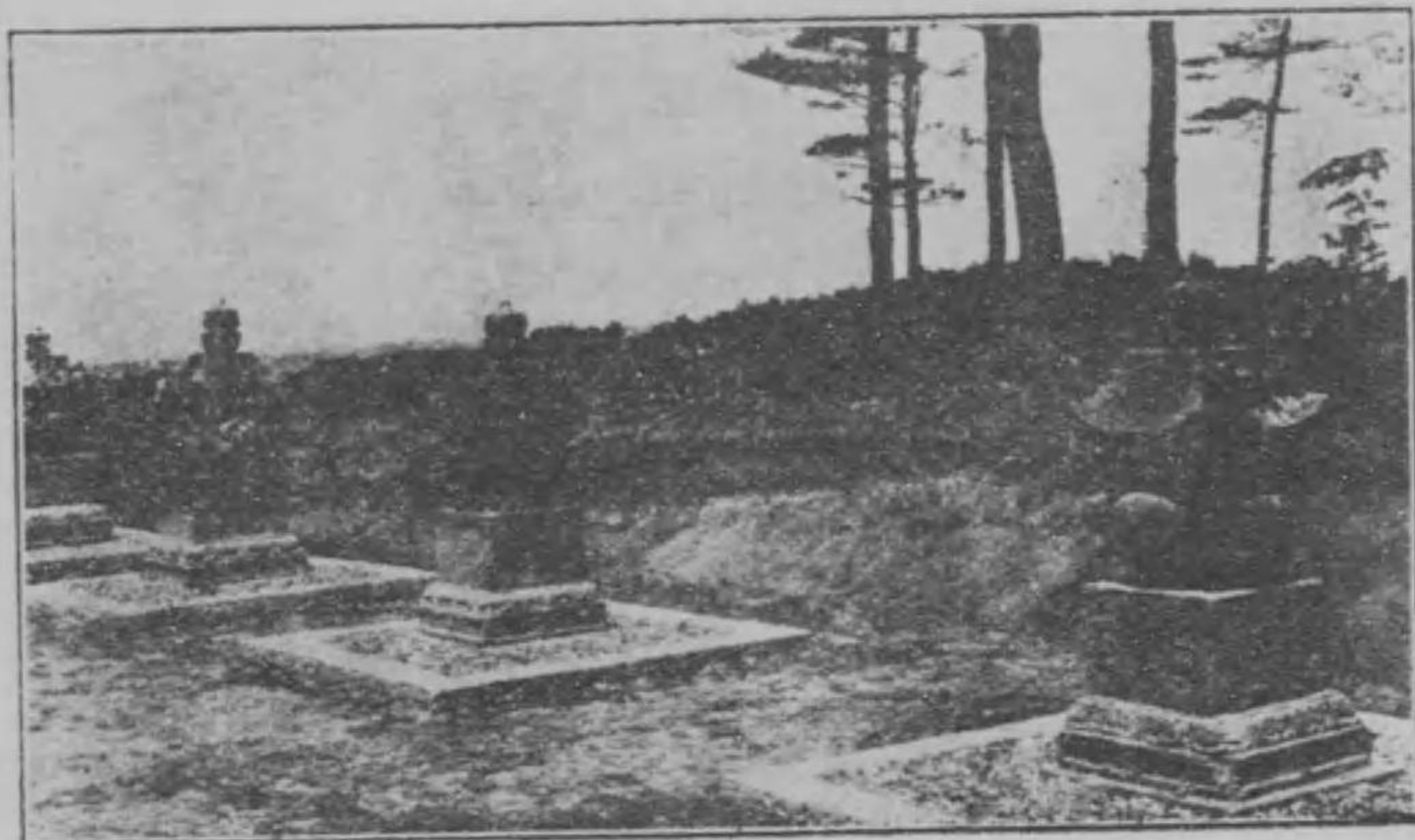
備前守大平三平全焼あり  
東北、巨利願教寺焼あり

舊櫻山

舊櫻山五重塔



米内村上田にあり、昔は南部家の菩提寺萬年山聖壽寺の跡にして、維新前は盛岡五ヶ寺の第一位にして寺領五百石を有し、堂塔伽藍聳立して威儀壯嚴を極めしも、廢藩の後諸堂を毀ちて今は僅かに五重塔の初層一基を残せるのみ、就て見るに總構造りにして丹朱を施さゝるところに却て妙味を存せり、況して五層天空を摩せし當時は如何に偉觀を呈せしや今猶想像に餘りあり堂内には千體地藏尊を安置し縁日には賽者群集せり、又堂側に戌辰殉難者碑及槍山佐渡碑あり、氏は維新の際南部藩の奥羽同盟に加擔せる責を一身に負ひ自刃の刑に處せられたる志士なり寺跡には一時櫻山神社を淺岸村妙泉寺山より遷して奉祀したり



南 部 藩 祖 墓

しも更に盛岡城の一廓に遷座して今は跡に一小祠を存す、然れども林泉は尙舊時の面影を存し櫻楓所々に點在して春秋遊覽の好適地たり。

山上は南部家歴代の廟所にして石の玉垣を圍繞したる巨墳至る處に在り、藩祖光行公及九代祐政公、十代政行公、十二代信長公の墓は何れも五輪の石塔婆にして質實なる鎌倉時代の世相を想像せしむ此の四基の墓石は元相州鎌倉なる舊成就院内に在りしを大正十年遷して山上最高の處に安置したるものなり。

又日露戦役の際軍事探偵として深く敵地に侵入し不幸ハルビンにて捕はれ遂に敵弾に斃れたる志士横川省三氏の墓も此山内に在りて知名の士の來り吊ふ者多し。



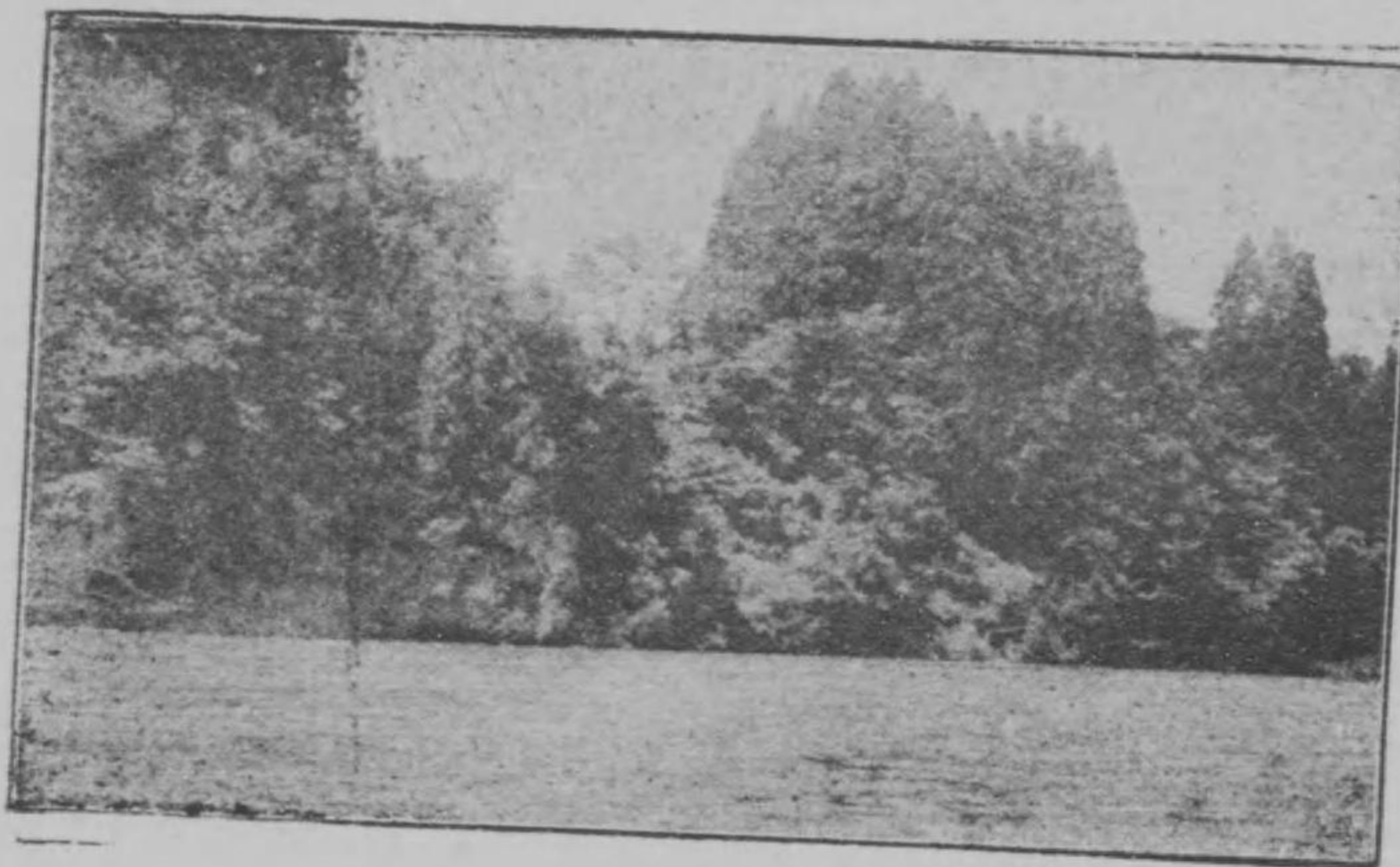
高 松 池

## 高 松 池

盛岡市の北端上田の東方にあり周圍里許丘巒之れを廻り碧水潭々として磨鏡を据えたるが如し、堤上より眼を四方に放てば北に巖手山を仰ぎ東に姫神嶽を望み西南は田園を隔て、盛岡の市街を觀望す、池は元山間低濕の地に堤防を築き貯水して灌漑の用に供せるもなるも風景の佳麗なるより都人士の杖を曳くもの多く遂に遊覽の地となれり、偶々明治三十九年日露戦争記念として有志者相計り數千株の櫻樹を植ふしかば爾來年毎に繁茂して一の名勝地となれり。

池畔一亭あり五秀園と稱す雪月に山水の双美を併せたる稱か以て雅客の清遊に便せり、今や春花満開の頃は觀客雲集して堤上の四周寸土を餘さざるの雜踏を呈することあり、夏は短艇を浮べて競漕に日の永きも忘れ、秋は滿林の紅葉池水に錦繡を浸

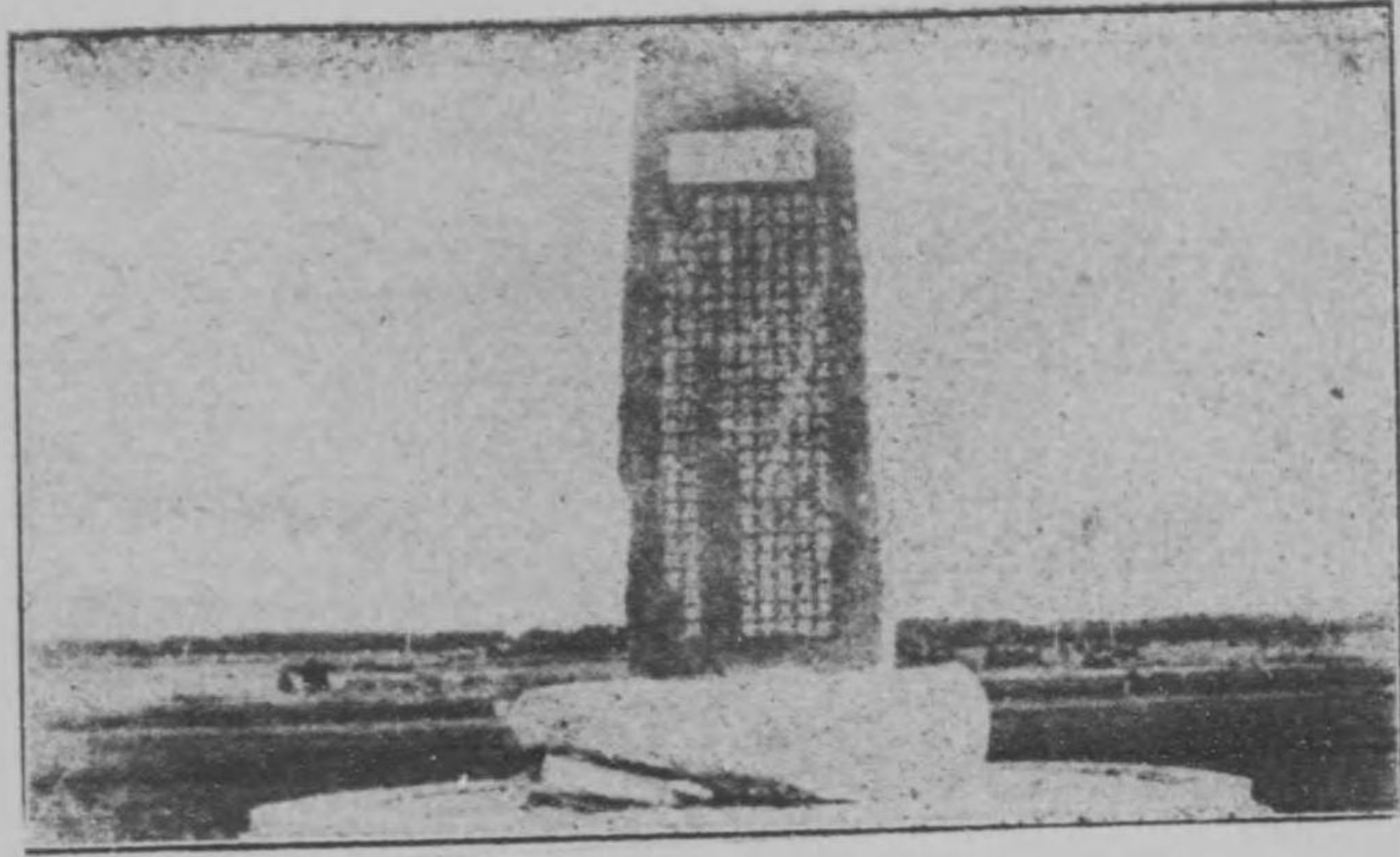
し冬は水面一體に堅氷を結び幾千の男女之れに上り滑走熾かんに行はる、四季遊覽に飽くなき近郊の勝地たり、附近に高松神社あり此の地の鎮守なり、池の名は蓋し之れより出てしものならん。高松の池を西に去る數町の處に黄金競馬場あり、明治三十六年の創設にして開院宮殿下の臺臨を仰きたるとき殿下の御命名を賜りたるものなり、毎年春秋二季競馬會を開催し馬産地として斯道の發達に貢献しつゝあり、小丘あり八幡森といふ前九年の役源軍の屯所にして安倍館を攻落したる古戰場なり。黄金清水は是より北方十數町、舊國道の右手に方りて山上に湧出す明治十四年車駕東巡の際、畏くも明治天皇の御こやすみところに充てられてより一層著名となれり



厨 川 柵 趾

### 厨 川 柵 趾

市を西に距る里餘、北上川の左岸にありて八幡森と相對す、康平年間安倍氏の據りたる壘砦にして里人今猶安倍館と稱す、前九年の役、安倍貞任此處に敗亡の後藤原泰衡潛伏せしが文治五年源頼朝の爲めに亡ぼされ、工藤小次郎行光岩手郡を與へられ城廓を修めて之れに居たりき、後元弘二年南部茂時の屬城たりしが文祿元年に至り故ありて之れを毀ち今は外濠の趾概ね變じて水田となり、城跡の幾部と共に僅かに古昔の倂を存せり。



觀武ヶ原

觀武ヶ原

市の北方約一里厨川にあり騎兵旅團及工兵隊の練兵場たり、元無名の曠野なりしが明治四十一年六月工兵第八大隊の弘前より轉營し來るや其の九月より十月初旬に亘りて特別工兵演習を此所に行ひたり、時恰も東宮殿下御東巡中に際し親しく演習地に臺覽あり、乃ち特に觀武ヶ原と命名せられたり、其翌年には新たに編成せられたる騎兵第三旅團の兵營竣成して入城せり。明治四十三年秋機動演習終了の後一萬の貔貅を此處に集合して壯大なる觀兵式を舉行し、同時に前年東宮御野立の箇所に記念碑を建立し除幕の式を擧げたり、碑文に曰く  
今茲戊申九月。工兵第二第八大隊及第八師團歩兵若干。行特別工兵演習于陸中岩手山南麓之野。會皇太子巡遊奥羽。途次臨觀累日。此地元無名。乃命曰觀武原。夫攻守之狀辱親閱。荒僻之

地。賜佳名。將卒之榮。州閭之譽。莫以加焉。於是。演習統監陸軍三將男爵上原勇作等。參與將士胥謙。將建碑于駐駕之處以傳萬世。徵文有朋。有朋亦當時陪觀焉乃叙之。  
明治四十一年十二月

元帥陸軍大將正二位大勳位功一級公爵 山 縣 有 朋 謹選並篆額  
内大臣秘書官從六位勳五等 日 高 秩 父 敬 書

\*大正四年五月東京朝日新聞社訪政飛行機ノ  
試飛行トシテ九州ノ太刀洗ヨリ當地ニ九時向ニシテ  
飛行セキキ着陸場ナリ。  
太刀洗盛岡内ノ大壯觀ナリヨリ飛行場トシテ名高クナ  
リヌ。



三、赤雲の旗高き  
四、大田のたけの健児

三、赤雲の旗高き  
文武の海をゆく  
久遠の影を身にたひて  
理想の船路に助け  
雄々しき魚む六百の  
健児の姿を君見おや

四、大田のたけの健児  
海陸のたけの健児  
増殖するうたけの健  
脚跡をたてて浪の  
そとを闘つた健児  
そとを闘つた大田  
(又上)

創りしまはつと全国中の一中風指しテノス名士雲々せり  
出せんと東北ニテテソ校アリト知らん。

現在にき後六百ノ盛ニ八百ノ盛アリ

原首相ノ出せ地ニテテ健児ニテテテアリ

名

物

## 名物

南部鐵瓶及茶の湯釜 本品製作の濫觴は遠く室町時代に於て有坂茂右衛門藤原吉家に創る、當時は釜の外一般鑄造に従事し二戸郡淨法寺なる桂清水觀世音の巨鐘を鑄て其名あり、其子孫世々南部家に仕へて鑄造を司とり後十八世有坂富右衛門藩命に依り鑄物師棟梁となり又御釜師として名あり、又別に鈴木縫殿なる者あり慶長の頃釜師として名あり技を以て同じく南部藩に仕ふ、更に萬治年間小泉五郎七清行といふあり、京都の産にして鑄術を名越三昌の門に學び、寛永中大西淨清、堀淨甫と共に三昌の弟家昌に隨ひて江戸に下れり、時に南部重信公江戸に於て五郎七を召抱へられ萬治二年盛岡に下れり、爾來累世本市に住し御鑄物師の命を蒙れり、斯くの如く古來名工輩出し又藩主の獎勵に依て其技益々進み名聲天下に噴々たるに至れり、然れども時に盛衰あり維新後廢藩置縣の頃は衰退其極に達したりしも、明治の初時の縣令嶋維精氏地方開發の爲、勸業政策に重きを置き、一時衰頹に瀕せる斯業の再興を計り銳意獎勵の途を講ぜしかば年を逐ふて恢復を見るに至れり、爾來種々の曲折を経て發展しつゝありしが、更に明治四十三年盛岡市に於て斯業の發展を一層熾かんらしめんが爲、技術の練磨と意匠研究の途を講ずべ

く、南部鐵瓶研究會を組織し毎年市費を與えて之を補助し、大正五年に及ぶ、此に於て一般の技術益々進み各博覽會共進會等に出品して毎度優賞博せざるはなし、斯く技術の進歩に伴ひ販路に於ても著しき發展ありたるを以て、其後組織を變更し、同業組合法に依り南部鐵瓶同業組合を作り、從來繼續しつゝありし技術研究の外更に製品の検査規定を設け一層作品の責任を明かにし、顧客をして疑念を懐かしめざるの方法を講ぜり、隨て販路も益々擴張し最近年産額百萬圓を超過するの勢を示せり

現今は本品製作上の技術を普通品と工藝品とに區分し、普通品は意匠に重きを置き且つ實用的のものとし、工藝品は美術を主眼として製作せる即ち普通品を超越して雅趣に富めるものとす南部鐵瓶及茶の湯釜は以上の如き發展を爲しつゝあると共に名工輩出し、益々名聲を高むるに至れり、就中左に列擧するものは現今斯業界に於ける最も優れたる美術工藝家として目せらる

- |       |        |
|-------|--------|
| 盛岡市紙町 | 有坂安太郎  |
| 同 加賀野 | 金澤千代吉  |
| 同 肴町  | 小泉仁左衛門 |
| 同 同   | 砂子澤平三郎 |

秀衡塗

一名南部蒔繪ともいふ、遠く平泉全盛の頃に起源し、其頃江刺郡正法寺及奥の二戸郡淨法寺等製作地として名あり、後南部氏盛岡に冥城するに及び漆工又移り住みて藩に召抱へられ子孫業を傳へて明治維新に至る、廢藩置縣の後一時大に衰頽したりしかば、大正四年盛岡市役所内に漆工會を設立し市内の漆工及木地業者を以て組織し専ら意匠圖案の研究を爲すの外、古來技術の變遷等を尋ね或は舊藏家に就て遺物を參觀せしめ、又參考品として古器を購入の上貸附せしむる等銳意斯業發展に資せしかば數年ならずして復興し秀衡塗として廣く世上に知らるゝに至る

本漆器は古朴なる色彩に箔蒔繪を施して雅致を存し殊に茶人之れを好み、古物は時下數十金を投ぜざれば手に入り難き價值を存せり、以て如何に數寄者の趣味に投ずるかを知るべし

南部紫絞及茜染

共に紫根及茜といえる植物性染料を以て染めとなしたるものにして衣服として尤も衛生に適せりと云へり、昔は木綿にのみ應用したりし、最近染色法を研究し絹布類に應用するに至る、文様概して粗放にして雅致に富み、永年褪色の憂なきを以て袴袴、帶地、布圍等に適

- |       |        |
|-------|--------|
| 同 新馬町 | 藥田吉右衛門 |
| 同 生姜町 | 高橋萬治   |

## 南部桐指物類及下駄類

し、又小模様のもは袋物に利用して都人士に愛好せらる

桐は本邦到る處に産出するも風土の關係にて其木質に多大の相違あり、然るに本縣は他に其比を見ざる特質を有せる良材を産出し中央市場に於て南部桐として喧傳せらる從て價格亦他縣産に比し數倍せり、本市の指物業者は此材料を用ひて箆筒、火鉢、箱類、其他一般の器具を製作して管外に移出し、又下駄として製造したるものは耐久力に富み且つ用ふるに隨ひ一種の紫色を呈するを以て特徴とす、中央に於ける製品の高價なるものは皆本縣産出の材料を應用せるものなり、之れ本市桐指物及下駄類の價值ある所以なり

## 岩手焼

故判事堀合卓爾氏の創作に係り陶質は佐渡の無名異焼に類し朱泥、黒泥、黄泥の三種あり、専ら茶器、菓子器、酒器、花瓶等を製作し雅致ある彫刻を施せるものあり、本邦朱泥陶器中佐渡に並ぶものにして文人、墨客、煎茶家等に愛せらる、近年更に化粧煉化をも製造せり、色澤高尚にして洋風建築に適せり

## 南部杓子

古來農家の副業として生産しつゝありしが他縣産に比し使用上頗る好適なるを以て、年を逐ふて販路を擴張しつゝあり、今は更に意匠を施し、銳意製作に従事するものありて益々名聲を博せり

## 豆銀糖

本縣は古來豆の産地として其名廣く世上に聞え就中青豆は色澤香味とも他に其の比を見ず、本品は其特殊の點を捉へて製造せる菓子にして昔より賞美せらるゝものなるも創製者及其の年月を詳にせず

## 黄精飴

山野に野生する「あまどころ」を原料として製造したるものにして特種の美味を有するのみならず滋養に富むを以て衛生的珍菓なり

## 松の實糖

五葉の松の實を原料とし、砂糖の衣をかけたるものにして其味淡泊なる又他に求むべからざる佳品なり

## 片栗落雁

野生の片栗粉を以て製したるものにして味輕妙なるのみならず滋養に富めるを以て古來珍賞せらる

## 葡萄飴

野生の葡萄汁を應用し製造したる菓子なり

## 林檎羹

本市特産の林檎を原料として製造したるものなれば香氣と相俟て珍味を有する菓子なり

## 家福餅

牛肥に胡桃を混じて精製したる菓子餅にして廣く世上に愛好せられ他府縣に移出せらる

## 金山からめ餅

家福餅に類し世上に賞味せらるゝこと同様なり

## 大作豆

檜木山騷動にて芝居講談等に有名なる下斗米大作の武勳を記念に意匠せるものにして、砲丸の

意味にて豆形となし特産の原料を應用し製造したるものなり

**南部うちほもち** 本菓は先年盛岡發明會に於て土産品意匠懸賞募集の際應募したるものにして特許局に於て審査の結果一等に當選したるものなり、意匠は南部角力の古實を採りて軍配形とし五穀成就の意を表するに五穀を原料として各種異りたる味を示し又容器は正方形にして南部角芝の意に依り中央には軍配周圍に土俵を配置せるを圖し、内容と相俟て本市の古實を意匠せる代表的土産品なり

**東ふびす** 前項同様に依り意匠したる新菓にして安倍貞任及宗任の歌意を顯はさんが爲め表面に鎧袖又は梅花を印し裏面に各詠歌を印せり、而して内容を梅露羹とせるは、我が國の梅の花とは見つけとももの歌意を採れるものなり

**盛岡りんご** 本市特産の林檎を砂糖漬としたるものにして果實を輪切となし意匠を施せる内容と共に珍味體裁の具備せる新菓なり

**あんにやき** (方言) 赤小豆の粒餡を煉粉にて包み兜形の焼型に入れて焼きたるものにして、昔より雅俗共に好嗜せらるゝ珍品なり

**團扇餅** (一名おちや餅) 米の粉奈を以て團扇形に拵へ串に通して醬油を塗り焼きたるものにて、淡泊な

るところに却て妙味を存し、今尙花辰月且に缺くべからざる好伴侶たり  
又蕎麥粉を以て同様に拵へ砂糖味噌を塗りて焼きたるものも格別の味あり  
**白煎餅** 地方特有の餅米を原料として焼きたるまゝのものにて他に何等香味を加へざるところに眞味を存す、殊に食餌を厭ふ病者には最も適良の品として古來之を贈答せり

**麥煎餅** (南部煎餅) 麥粉を粘り胡摩を振りて焼きたるものにして味軽く喫茶の友たるのみならず、麥酒の酒材として適當なり

**無爵煎餅** 白煎餅に意匠を加へたるものにして、其の意は故原宰相閣下の思想に採り無欲恬淡の意味を顯はしたるものなり

**寒大根** 秋季收穫したる大根を貯藏し嚴冬の頃割きて煮沸し水に浸して之を晒し後取出して寒天に凍冰せしめ更に乾燥したるものなり、魚類其他を加へ煮て食するときは寧ろ魚肴以上の美味を有せり

**凍豆腐** 本縣生産の大豆は、南部大豆として滋味に富めること本邦に冠たり、本市豆腐業者は此大豆を原料とし嚴寒の季節を利用して製造したるものなれば、隨て味の佳良なること他に匹敵するものなし

安庭漬

福神漬に類したるものなれども柔かにして味の軽きこと此の種の製品中に冠絶せるものなり

小梨罐詰

本市附近特産の小梨(極小粒にして核なし)を詰めたるものにして其味甘美なるのみならず香氣馥郁として地方特有のものなり

甘藍

俗に玉菜と稱す、本市及附近皆栽培に適せるを以て結球堅く大なるは徑一尺五寸重量二貫匁のものあり、味甘味にして且つ柔かなること本邦に冠たり、産額又豊富にして東京及各縣へ盛に移出せらる

南部午莠

長さ四尺に達す其味他に比なきを以て近年縣外に移出するもの夥し、大阪地方にては之を以て菜子を製造せり

長茄子

南部長茄子として園藝界に知らる軟かにして甘味なること他に比なし鹽漬として殊に適當なり

百合根

甘味にして澱粉又多量なり大なるは徑四寸位のものあり以上の蔬菜は又種子としても他に移出するもの多く共に本市特有のものとして全國蔬菜栽培者より歓迎せらる

萃梨

味甘酸にして且つ芳香を有す、香味色澤共に他に卓越せるを以て盛岡林檎と稱して世に知らる

小梨

枇杷の實位の果實にして核を有せず、故に一名種なしと稱す、皮を剥かずして其儘味ふべし一種の芳香を有し生食する外罐詰として縣外に移出せらる

松の實

五葉の松の實にして大き五寸位あり、片鱗の間に大角豆大の實あり味淡泊にして高尚なり料理に用ゐらるゝも多くは菓子に製造す、本市及附近特有のものなり

巨頭辨當

原大空相ヲ水邊ニ記念セシタメ東北本線盛岡駅ノ一弁當ナリ。一世ノ大政治家原首相が議會ニ於テ敵党ヲ書キ顔色ナキ程ニ擊テ退シ大演説ヲナシテ、アル雄也ヲ罵ルモノニテ中ハ普通ノ弁當ト同じ、三十五支入ニシテ東北本線指折リモトシテ普ク旅人ノ購食スルモノナリ。

盛岡産業名勝名物案内 畢

◎盛岡市東北地方名産盛岡市が今後益々発展盛ナランコトヲ期スルニシテ盛岡中一生徒ニアリ

同本丸	內手園	茸屋	同紺町	同十町	吳三服日	同六日	大澤川	同同	盛岡	著
							原小		驛	
							路		前	名

沼宮	小宮	大宮	似村	齋內	三藤	中嶋	杉嶋	德正	照亦	高與	大正	近江	清風	陸奧	旅
															館
															館

寺ノ	夕顏	多	同	同	同	同	八幡	本紙	同	同	同	同	同	同	內	著
																名
																料

川	夕川	細田	澤原	小瀬川	三上	藤田	芳竹	丸清	日清	扇清	菊花	花清	秀清	秀清	料
															理
															店

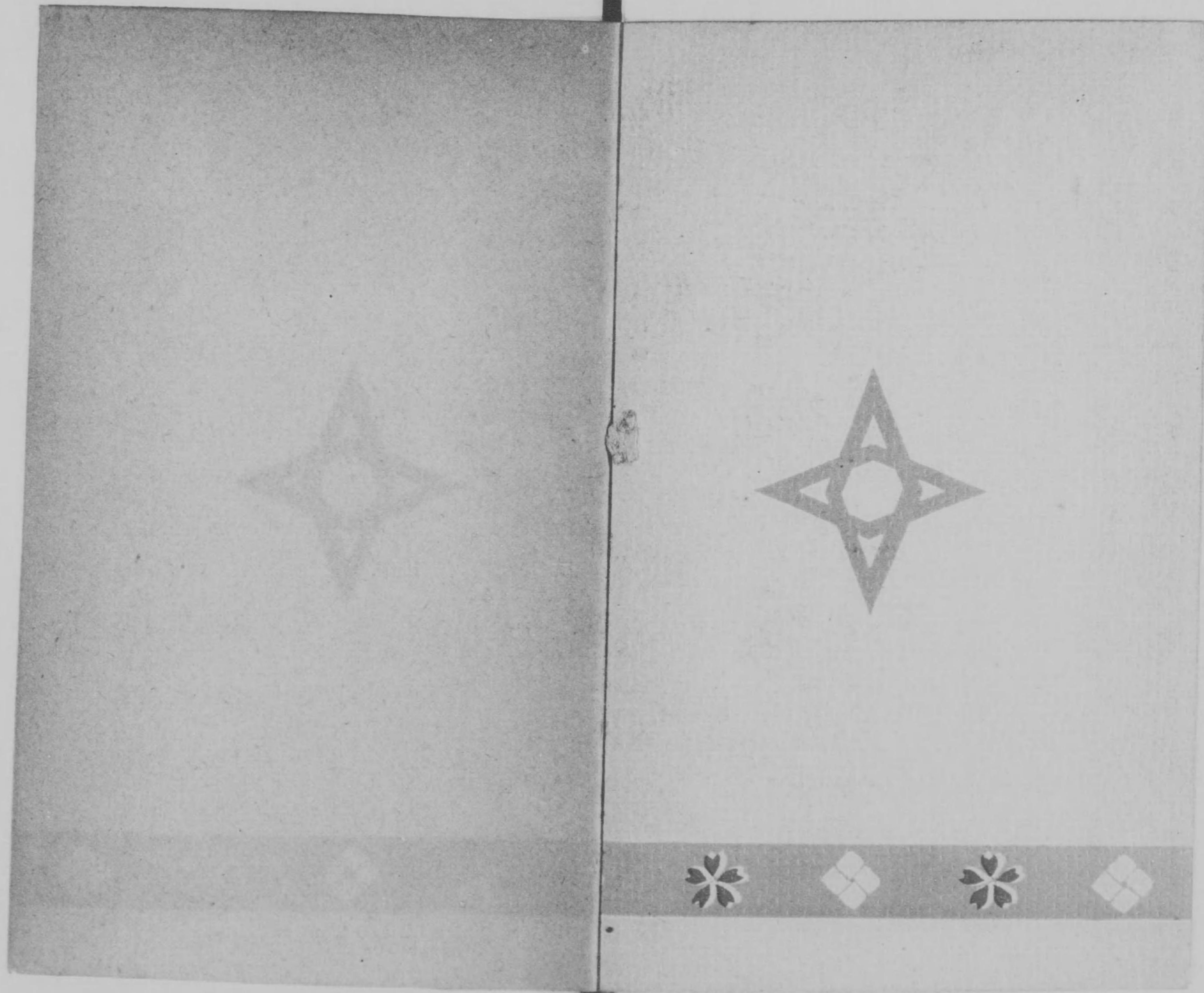
鐵賀亭屋屋屋亭屋屋樓軒屋屋久月軒閣

大正十一年六月三十日印刷  
大正十一年七月十日發行

盛岡市役所

印刷所 盛岡市内丸

印刷者 盛岡市内丸 多嘉





396
350

終

